

京都市
結婚と出産に関する意識調査

【結果報告書】
（概要版）



平成26年10月
京都市

目次

I	調査の概要	1
1	調査の目的.....	1
2	調査概要.....	1
3	調査結果の表示方法.....	1
II	調査結果	2
1	回答者の属性.....	2
2	少子化について.....	6
3	結婚について.....	11
4	出産について.....	25
5	「真のワーク・ライフ・バランス」の実現について.....	30
6	最後に.....	38

子どもを共に育む 京都市民憲章



わたくしたちのまち京都には、子どもを社会の宝として、愛し、
慈しみ、将来を託してきた、人づくりの伝統があります。

そうした伝統を受け継ぎ、人と自然が調和し、命のつながりを
大切に、子どもを健やかで心豊かに育む社会を築くことは、
京都市民の使命です。

大人は、子どもの可能性を信じ、自ら育つ力を大切に、
子どもを見守り、褒め、時には叱り、共に成長していくことが
求められます。そして、子どもを取り巻く状況を常に見つめ、
命と健やかな育ちを脅かすものに対して、毅然とした態度で
臨む必要があります。

わたくしたちは、子どもたちの今と未来のため、家庭、地域、
学校、企業、行政など社会のあらゆる場で、人と人の絆を結び、
共に生きるうえでの行動規範として市民憲章を定めます。



京都はぐくみ憲章

わたくしたちは、

- 1 子どもの存在を尊重し、かけがえのない命を守ります。
- 1 子どもから信頼され、模範となる行動に努めます。
- 1 子どもを育む喜びを感じ、親も育ち学べる取組を進めます。
- 1 子どもが安らぎ育つ、家庭の生活習慣と家族の絆を大切にします。
- 1 子どもを見守り、人と人が支え合う地域のつながりを広げます。
- 1 子どもを育む自然の恵みを大切に、社会の環境づくりを優先します。

1 9 2 5
平成19年2月5日（育児ニコニコ笑顔の日）制定
3月13日 京都市会が憲章推進を決議

I 調査の概要

1 調査の目的

京都市では、子育て支援施策の総合的な計画として、平成22年3月に「京都市未来こどもプラン」（以下「現行プラン」といいます。）を策定し、子どもたちの笑顔のためにみんなで子育てを支え合えるまちづくりを進めてきました。

現行プランの計画期間は、平成26年度までとなっていることから、京都市では、現行プランを見直し、平成27年度から平成31年度までの5箇年を計画期間とする新たなプランを策定することとしています。

本調査は、この新たなプランの策定に際し、市民の皆様は結婚と出産に関する意識などを聞き、一層進行する少子化について、社会全体でどのように対応していくべきなのか検討し、次期プランの策定や今後の子育て支援施策の推進や少子化対策に活用することを目的に実施したものです。

2 調査概要

○調査地域：京都市全域

○調査対象者：京都市内在住の18歳から49歳までの市民

○調査期間：平成25年10月30日から11月13日まで

○調査方法：郵送配布・郵送回収（無記名回答）

	配布数	有効回収数	有効回収率
結婚と出産に関する意識調査	6,500人	1,842人	28.3%

3 調査結果の表示方法

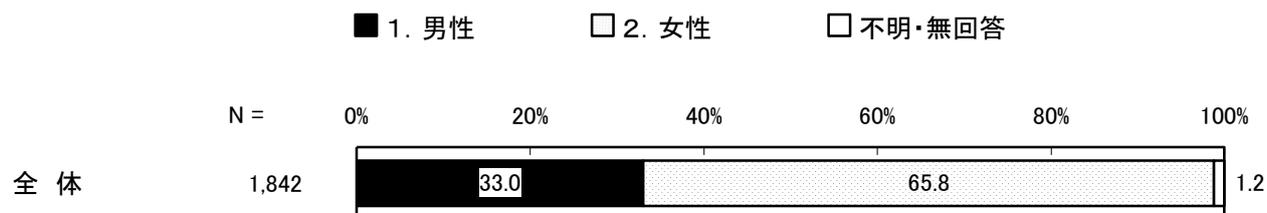
- 回答は各質問の回答者数（N）を基数とした百分率（％）で示しています。また、小数点以下第2位を四捨五入しているため、内訳の合計が100.0%にならない場合があります。
- 複数回答が可能な設問の場合、回答者が全体に対してどのくらいの比率であるかという見方になるため、回答比率の合計が100.0%を超える場合があります。
- クロス集計の場合、無回答を排除しているため、クロス集計の有効回答数の合計と単純集計（全体）の有効回答数が合致しないことがあります。なお、クロス集計とは、複数項目の組み合わせで分類した集計のことで、複数の質問項目を交差して並べ、表やグラフを作成することにより、その相互の関係を明らかにするための集計方法です。
- 調査結果を図表により表示していますが、グラフ以外のクロス集計表は、最も高い割合のものを■で網かけをしています。

Ⅱ 調査結果

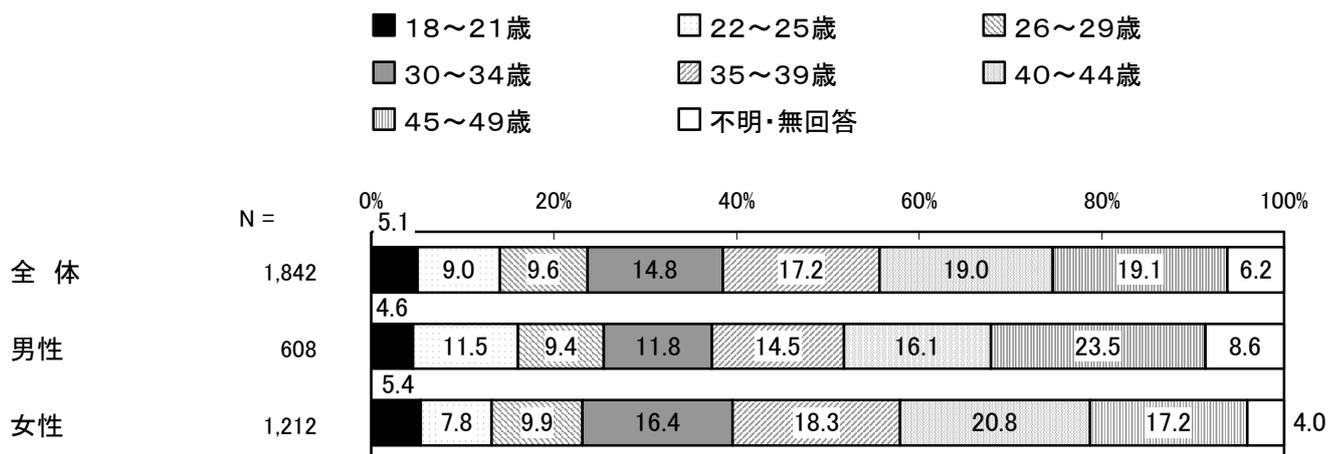
1 回答者の属性

問1 あなたの性別と年齢をお聞きします（年齢は平成25年10月1日現在）。

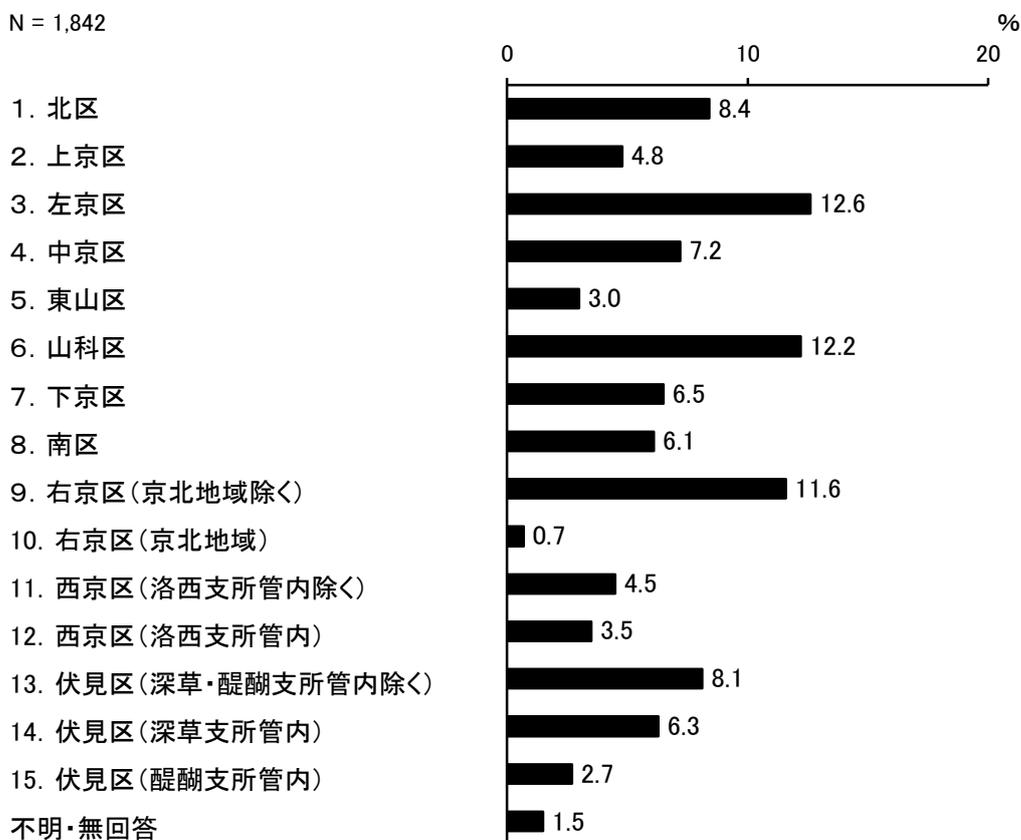
【性別】



【年齢】

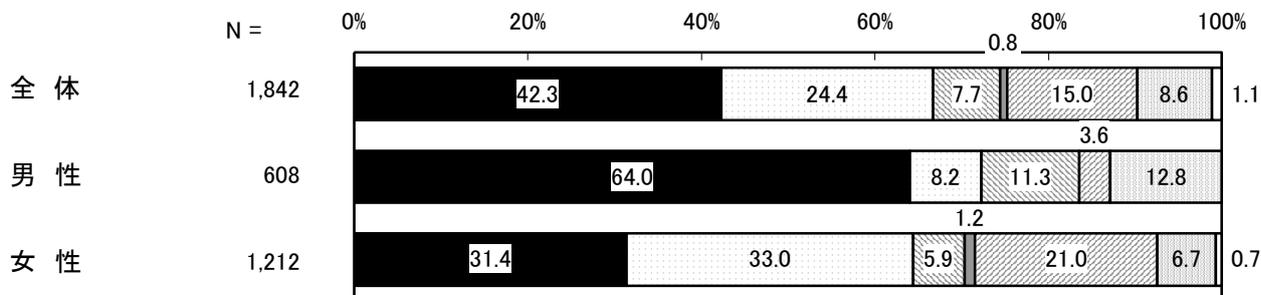


問2 お住まいの区等はどちらですか。当てはまる番号1つに○をつけてください。

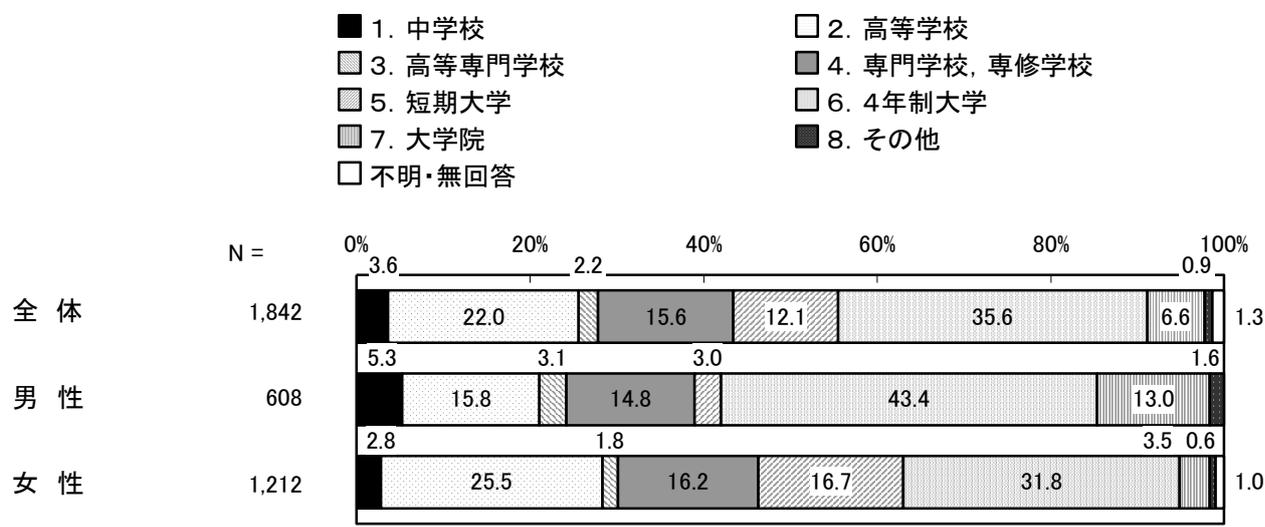


問3 あなたの職業をお聞きします。当てはまる番号1つに○をつけてください。

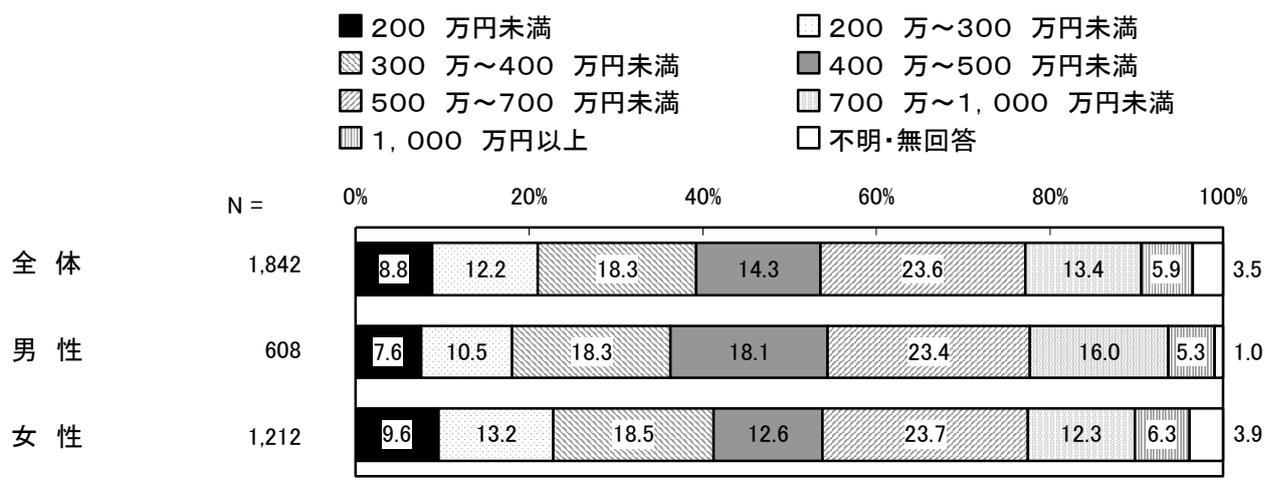
- 1. 常勤(正規職員等) □ 2. パート・アルバイト ▨ 3. 自営業
- ▩ 4. 在宅勤務・内職 ▨ 5. 無職・家事専業 □ 6. 大学生・大学院生
- 不明・無回答



問4 あなたの最終学歴をお聞きします。当てはまる番号1つに○をつけてください。

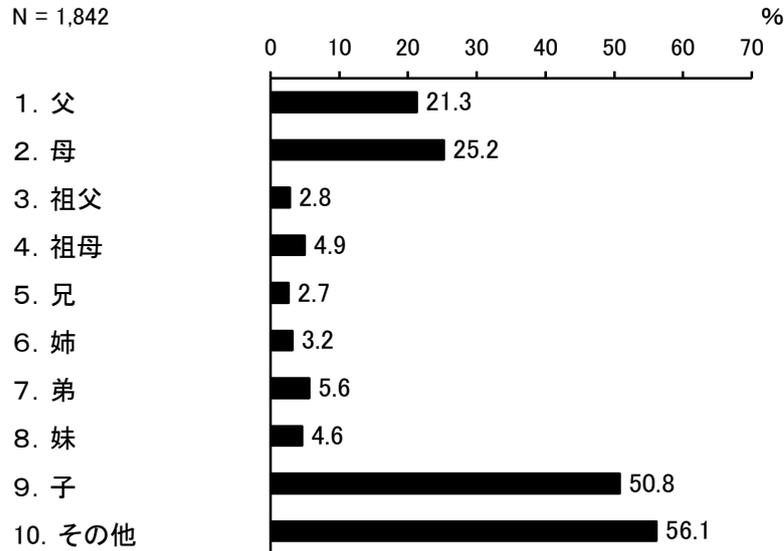


問5 同居しているご家族全員の総収入（世帯の年収）はいくらくらいですか。当てはまる番号1つに○をつけてください（事業収入の場合は、売上から諸経費を差し引いた金額）。

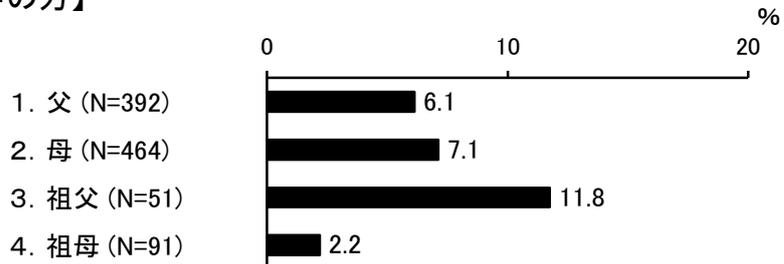


問6 あなたを含めて、同居しているすべてのご家族について、あなたからみた続柄、職業、年齢、健康状態及び心身の状況について、下記の選択肢番号を記入してください（年齢は平成25年10月1日現在）。

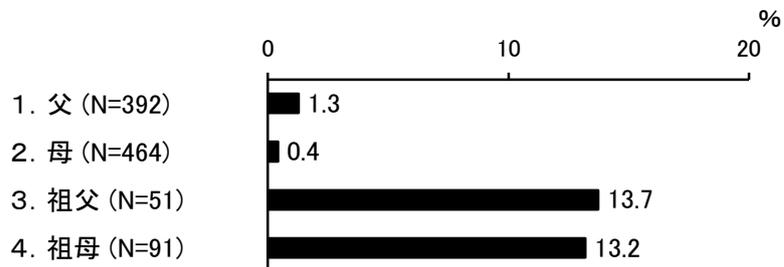
【同居の状況別】



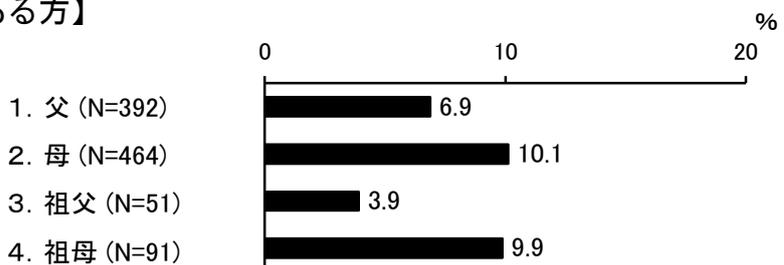
【現在 病気療養中の方】



【介護が必要な状態の方】



【心身に障がいがある方】

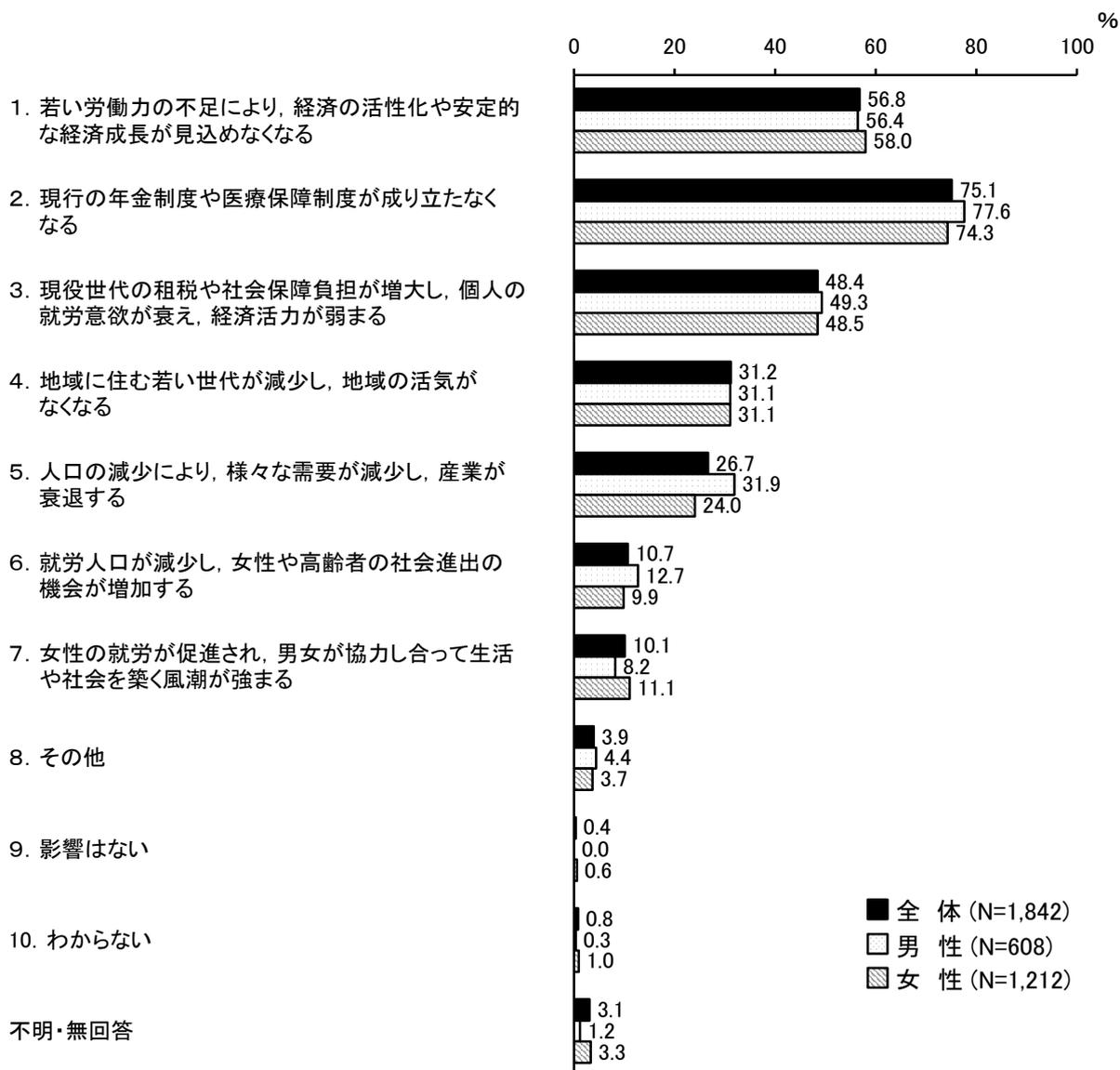


2 少子化について

問7 少子化が社会に与える影響として、どのようなものがあると思いますか。当てはまる番号3つまでに○をつけてください。

「2. 現行の年金制度や医療保障制度が成り立たなくなる」の割合が75.1%と最も高く、次いで「1. 若い労働力の不足により、経済の活性化や安定的な経済成長が見込めなくなる」の割合が56.8%, 「3. 現役世代の租税や社会保障負担が増大し、個人の就労意欲が衰え、経済活力が弱まる」の割合が48.4%となっています。

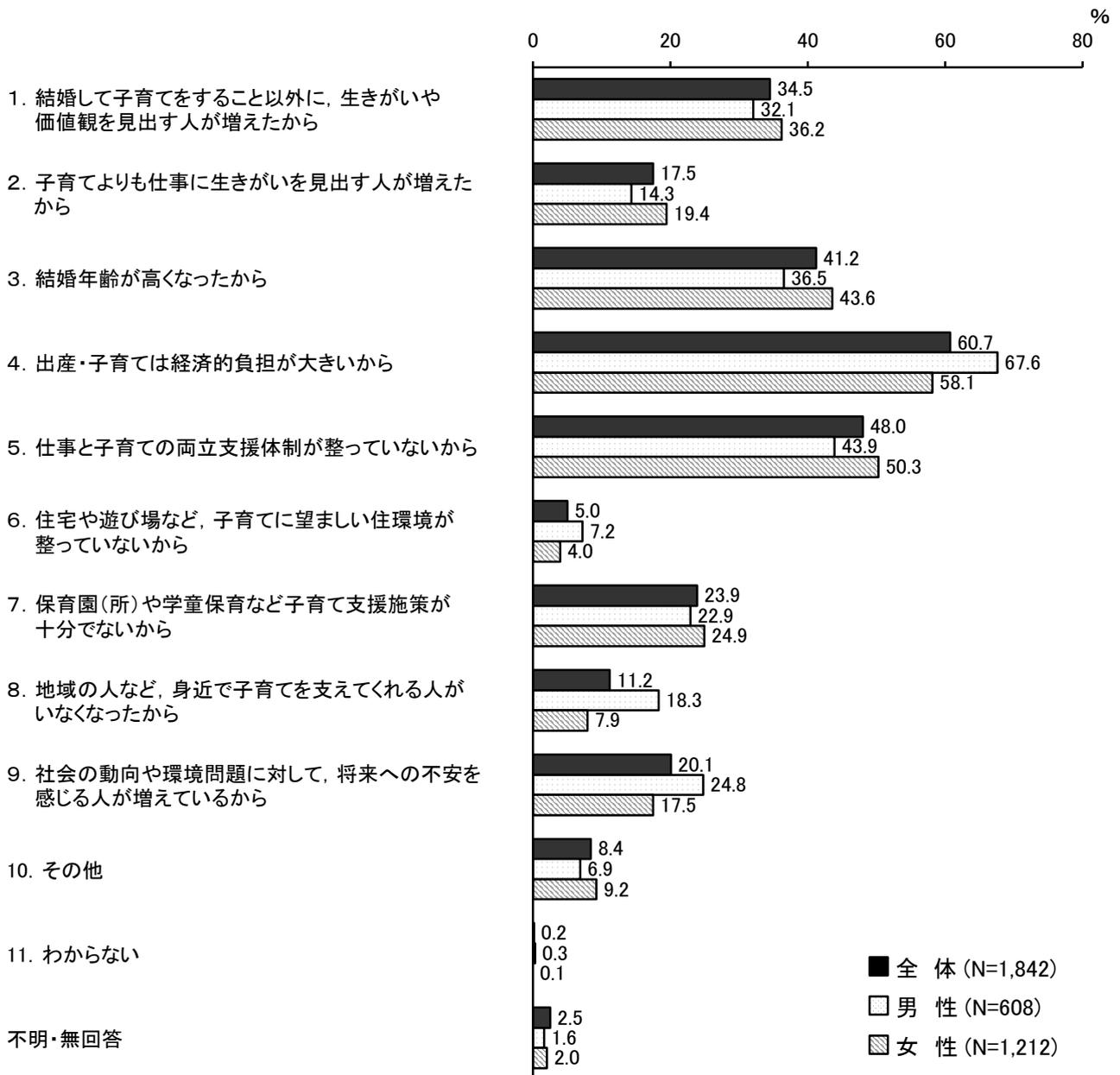
性別にみると、「5. 人口の減少により、様々な需要が減少し、産業が衰退する」については、「男性」が31.9%に対し、「女性」が24.0%と7.9ポイントの差が生じています。



問8 出生率が低い主な原因は何だと思いますか。当てはまる番号3つまでに○をつけてください。

「4. 出産・子育ては経済的負担が大きいから」の割合が60.7%と最も高く、次いで「5. 仕事と子育ての両立支援体制が整っていないから」の割合が48.0%、「3. 結婚年齢が高くなったから」の割合が41.2%となっています。

性別にみると、「4. 出産・子育ては経済的負担が大きいから」については、「男性」が67.6%に対し、「女性」が58.1%、「8. 地域の人など、身近で子育てを支えてくれる人がいなくなったから」については、「男性」が18.3%に対し、「女性」が7.9%とそれぞれ約10ポイントの差が生じています。

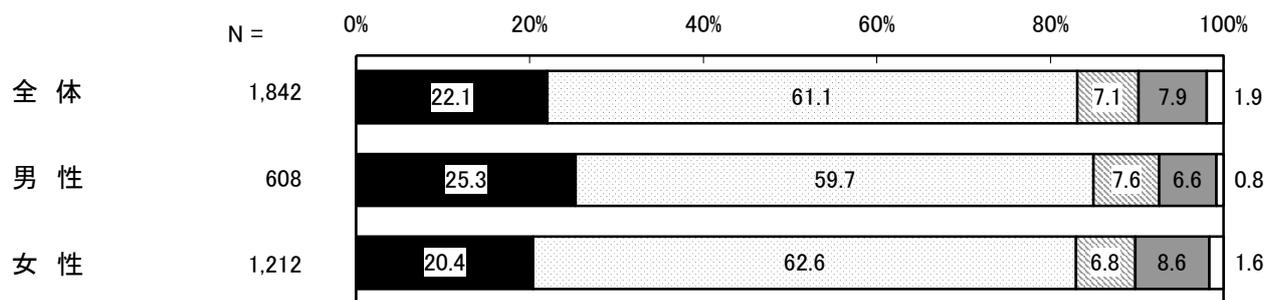


問9 あなたは、出生率の増加を必要と考えますか。当てはまる番号1つに○をつけてください。

「2. 増加させたほうがよい」の割合が61.1%と最も高く、次いで「1. 何としても増加させる必要がある」の割合が22.1%、「3. 増加させなくてもよい」の割合が7.1%となっています。

性別による大きな差はみられません。

- 1. 何としても増加させる必要がある □ 2. 増加させたほうがよい
- ▨ 3. 増加させなくてもよい ■ 4. わからない
- 不明・無回答

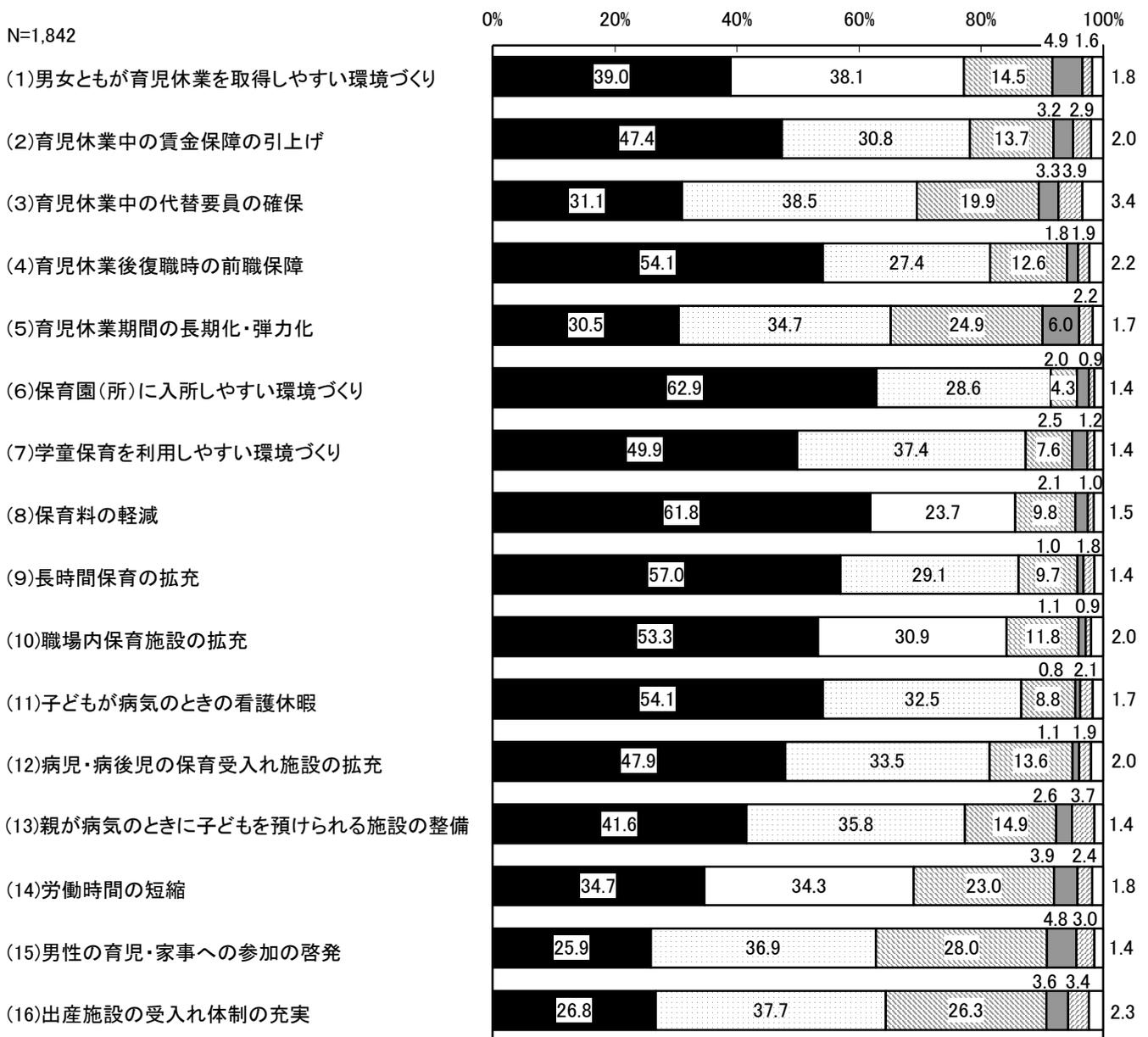


問10 以下の施策等について、少子化対策として効果があると思いますか。各項目につき当てはまる番号1つに○をつけてください。

「1. かなり効果がある」と「2. 少しは効果がある」を合わせた『効果がある』の割合が高い施策等は、「(6) 保育園(所)に入所しやすい環境づくり」が最も高く91.5%、「(21) 子どもの教育費の軽減」が88.2%となっています。

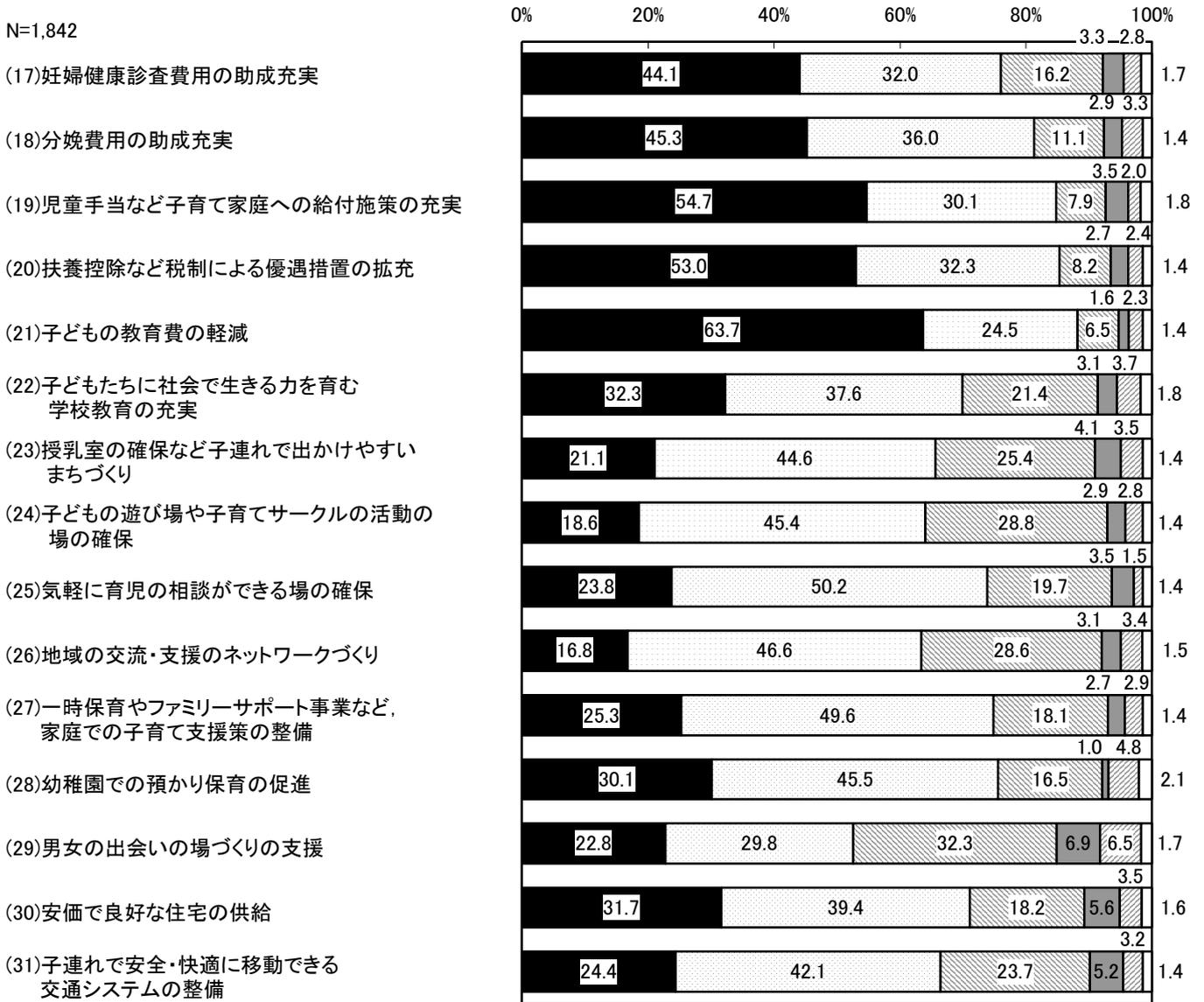
一方で、「3. あまり効果がない」と「4. 全く効果がない」を合わせた『効果はない』の割合が高い施策等は、「(29) 男女の出会いの場づくりの支援」が最も高く39.2%、次いで「(15) 男性の育児・家事への参加の啓発」が32.8%と高くなっています。

- 1. かなり効果がある □ 2. 少しは効果がある ▨ 3. あまり効果はない
- 4. 全く効果はない ▩ 5. わからない □ 不明・無回答



■ 1. かなり効果がある □ 2. 少しは効果がある ▨ 3. あまり効果はない
 ■ 4. 全く効果はない ▩ 5. わからない □ 不明・無回答

N=1,842



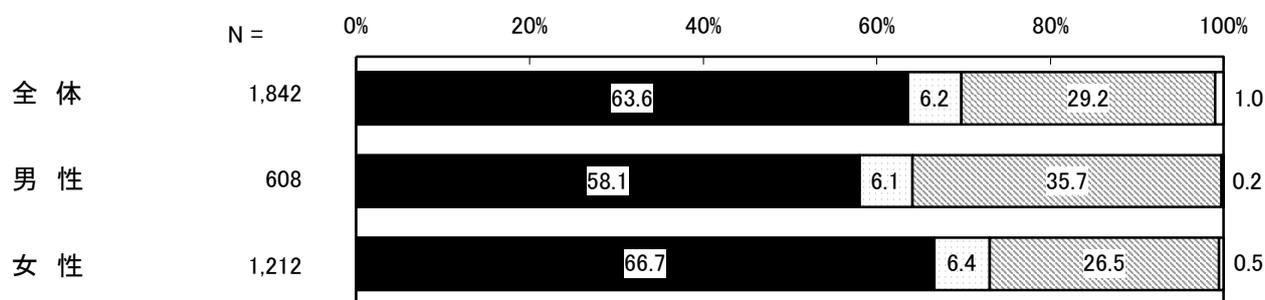
3 結婚について

問 1 1 あなたは結婚（入籍していないいわゆる事実婚を含みます）していますか。当てはまる番号 1 つに○をつけてください。

「1. 結婚している」の割合が63.6%と最も高く、次いで「3. 結婚していない」の割合が29.2%、「2. 結婚していたことはあるが、離（死）別した」の割合が6.2%となっています。

性別にみると、「結婚している」については、「男性」が58.1%に対し、「女性」が66.7%と8.6ポイントの差が生じています。一方、「3. 結婚していない」については、「男性」が35.7%に対し、「女性」が26.5%と9.2ポイントの差が生じています。

- 1. 結婚している
- 2. 結婚していたことはあるが、離（死）別した
- ▨ 3. 結婚していない
- 不明・無回答



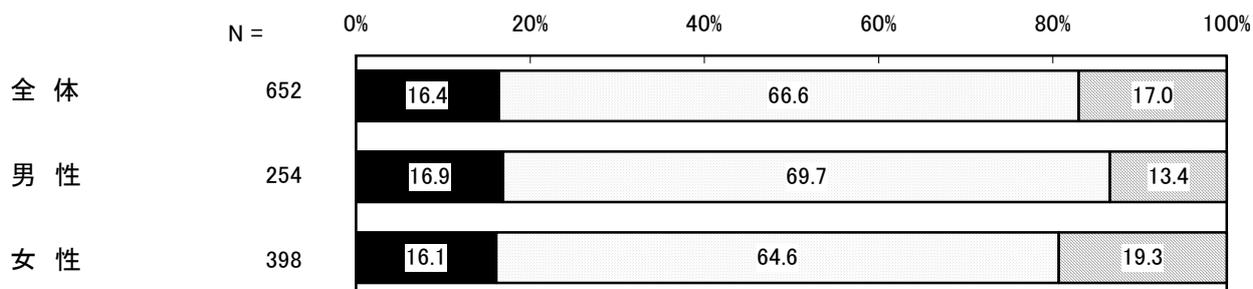
問 1 1-2～問 1 1-4 は、問 1 1 で「結婚していたことはあるが、離（死）別した」または「結婚していない」を選ばれた方にお聞きします。

問 1 1-2 今後、結婚したいと思いますか。当てはまる番号 1 つに○をつけてください。

「2. いずれはしたい」の割合が66.6%と最も高く、次いで「3. 結婚したくない」の割合が17.0%、「1. すぐにでもしたい」の割合が16.4%となっています。

性別による大きな差はみられません。

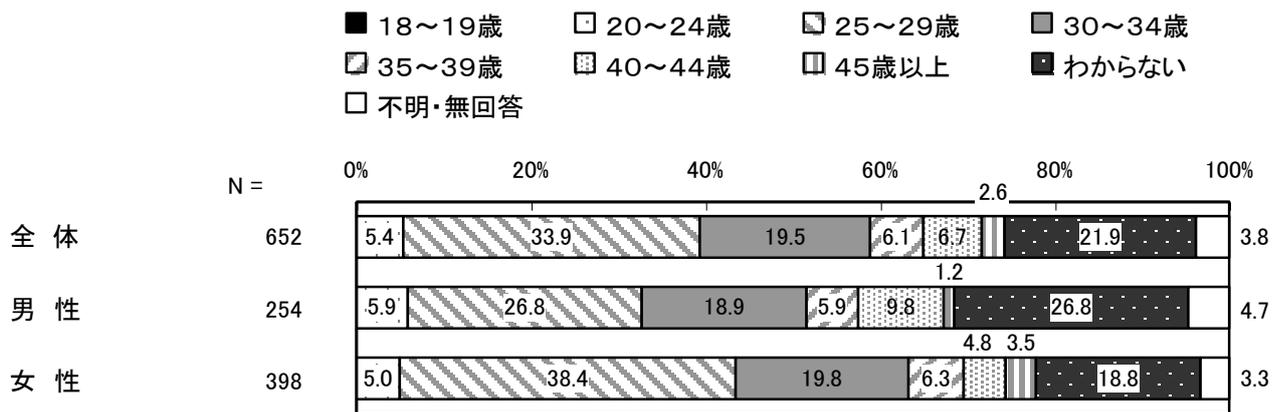
- 1. すぐにでもしたい
- 2. いずれはしたい
- ▨ 3. 結婚したくない
- 不明・無回答



問 1 1 - 3 あなたが結婚したいと思う年齢はどれですか。当てはまる番号 1 つに○をつけてください。

「25～29歳」の割合が33.9%と最も高く、次いで「30～34歳」の割合が19.5%、「40～44歳」の割合が6.7%となっています。

性別にみると、「25～29歳」について、「男性」が26.8%に対し、「女性」が38.4%と11.6ポイントの差が生じています。



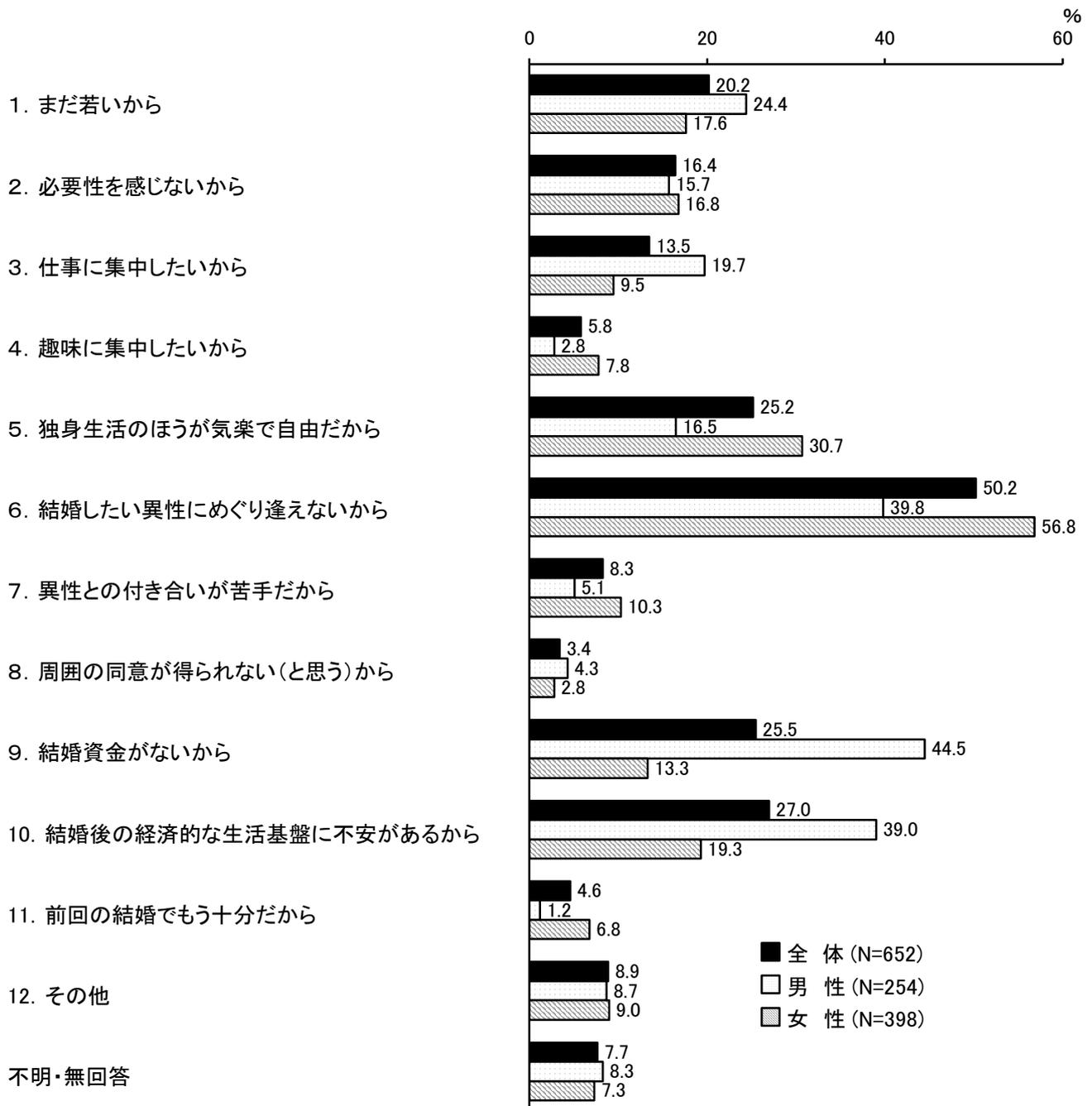
単位: 上段(件)/下段(%)

	全体	18～19歳	20～24歳	25～29歳	30～34歳	35～39歳	40～44歳	45歳以上	わからない	不明・無回答
全体	652	0	35	221	127	40	44	17	143	25
	100.0	0.0	5.4	33.9	19.5	6.1	6.7	2.6	21.9	3.8
男性	254	0	15	68	48	15	25	3	68	12
	100.0	0.0	5.9	26.8	18.9	5.9	9.8	1.2	26.8	4.7
女性	398	0	20	153	79	25	19	14	75	13
	100.0	0.0	5.0	38.4	19.8	6.3	4.8	3.5	18.8	3.3

問 11-4 結婚していない、あるいは、結婚したくない理由をお聞きします。当てはまる番号3つまでに○をつけてください。

「6. 結婚したい異性にめぐり逢えないから」の割合が50.2%と最も高く、次いで「10. 結婚後の経済的な生活基盤に不安があるから」の割合が27.0%、「9. 結婚資金がないから」の割合が25.5%となっています。

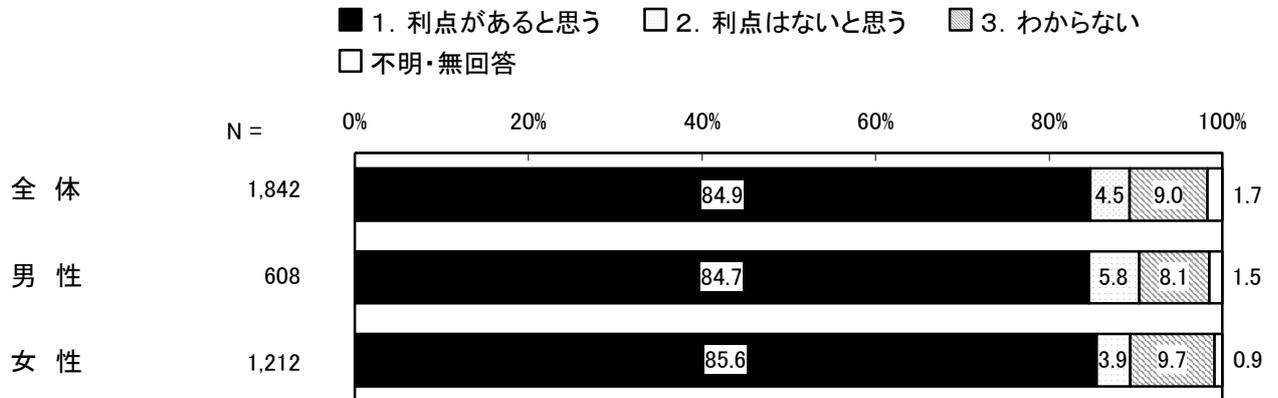
性別にみると、男性で「9. 結婚資金がないから」が、女性は「6. 結婚したい異性にめぐり逢えないから」が最も高くなっています。



問12～問16までは、既婚・未婚にかかわらず想定でお答えください。

問12 結婚生活は独身生活にはない利点があると思いますか。当てはまる番号1つに○をつけてください。

「1. 利点があると思う」の割合が84.9%と最も高く、次いで「2. 利点はないと思う」の割合が4.5%となっています。

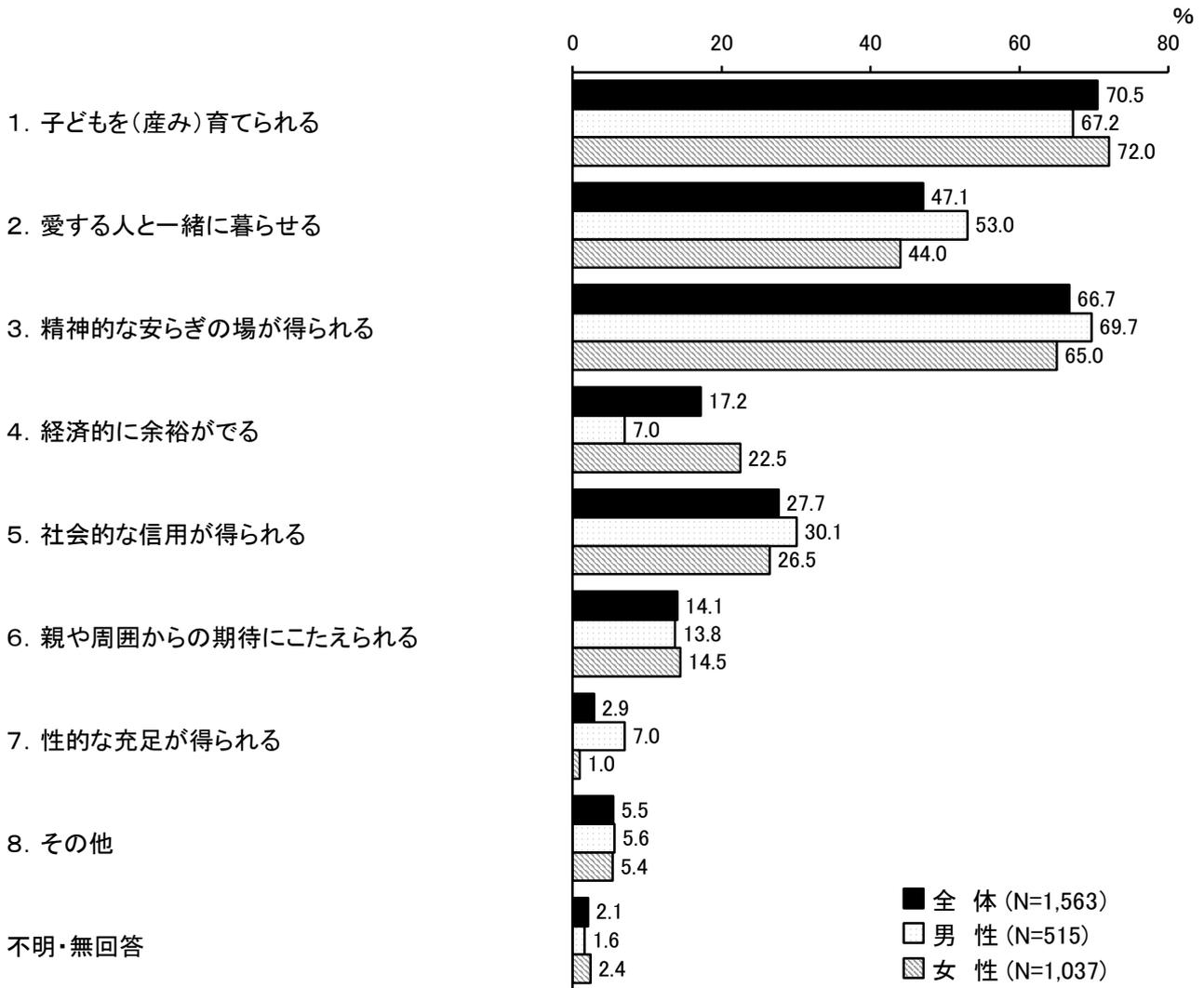


問12で「利点があると思う」を選んだ方にお聞きします。

問12-2 具体的な利点はどんなことが考えられますか。当てはまる番号3つまでに○をつけてください。

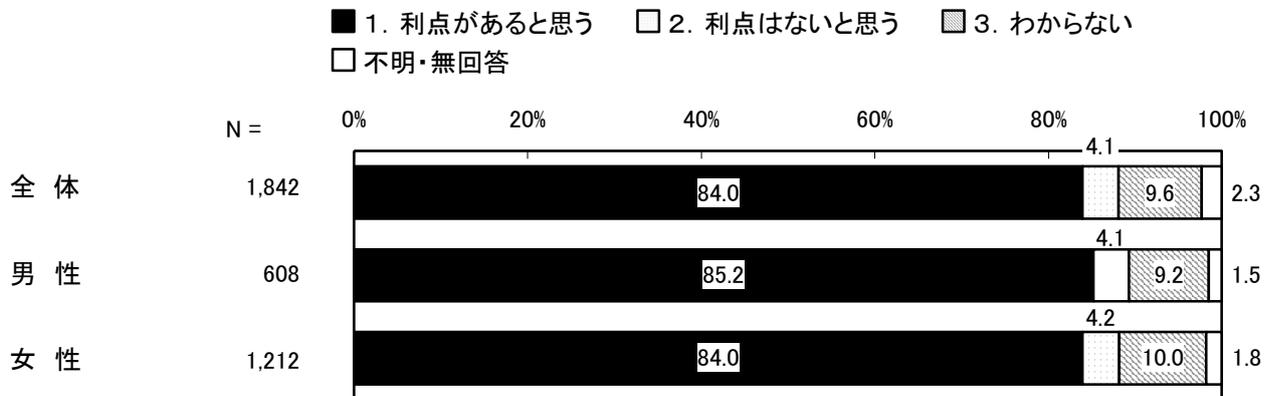
「1. 子どもを(産み)育てられる」の割合が70.5%と最も高く、次いで「3. 精神的な安らぎの場が得られる」の割合が66.7%、「2. 愛する人と一緒に暮らせる」の割合が47.1%となっています。

性別にみると、「2. 愛する人と一緒に暮らせる」については、「男性」が53.0%に対し、「女性」が44.0%と9.0ポイントの差が生じています。



問 1 3 独身生活に結婚生活にはない利点があると思いますか。当てはまる番号 1 つに○をつけてください。

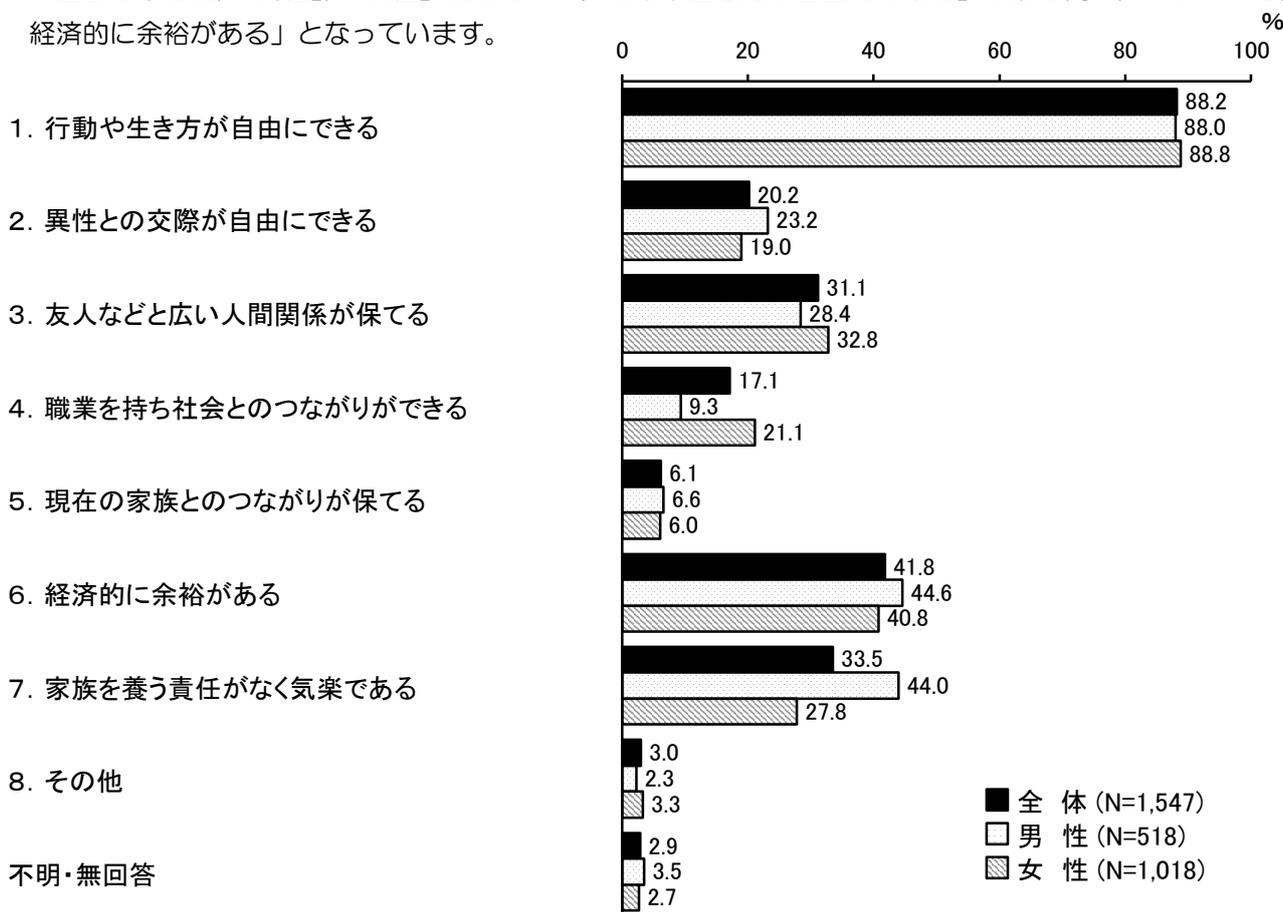
「1. 利点があると思う」の割合が84.0%、「2. 利点はないと思う」の割合が4.1%となっています。



問 1 3 - 2 は、問 1 3 で「利点があると思う」を選ばれた方にお聞きします。

問 1 3 - 2 具体的な利点はどんなことが考えられますか。当てはまる番号 3 つまでに○をつけてください。

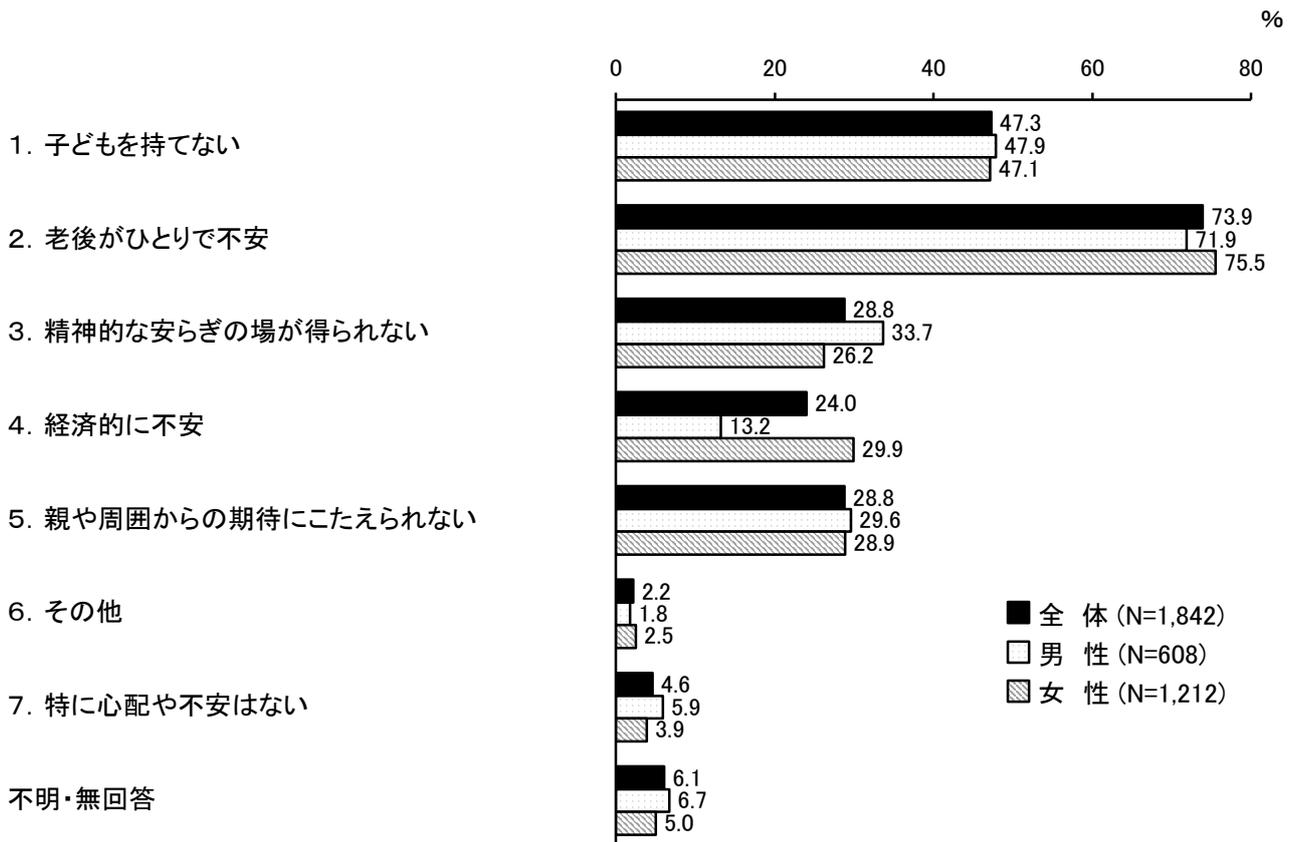
「1. 行動や生き方が自由にできる」の割合が88.2%と最も高く、次いで「6. 経済的に余裕がある」の割合が41.8%、「7. 家族を養う責任がなく気楽である」の割合が33.5%となっています。性別にみると、「男性」、「女性」とともに「1. 行動や生き方が自由にできる」が最も高く、次いで「6. 経済的に余裕がある」となっています。



問14 独身生活を続けるとした場合、どんな心配や不安がありますか。当てはまる番号3つまでに○をつけてください。

「2. 老後がひとりで不安」の割合が73.9%と最も高く、次いで「1. 子どもを持ってない」の割合が47.3%、「3. 精神的な安らぎの場が得られない」、「5. 親や周囲からの期待にこたえられない」の割合が28.8%となっています。

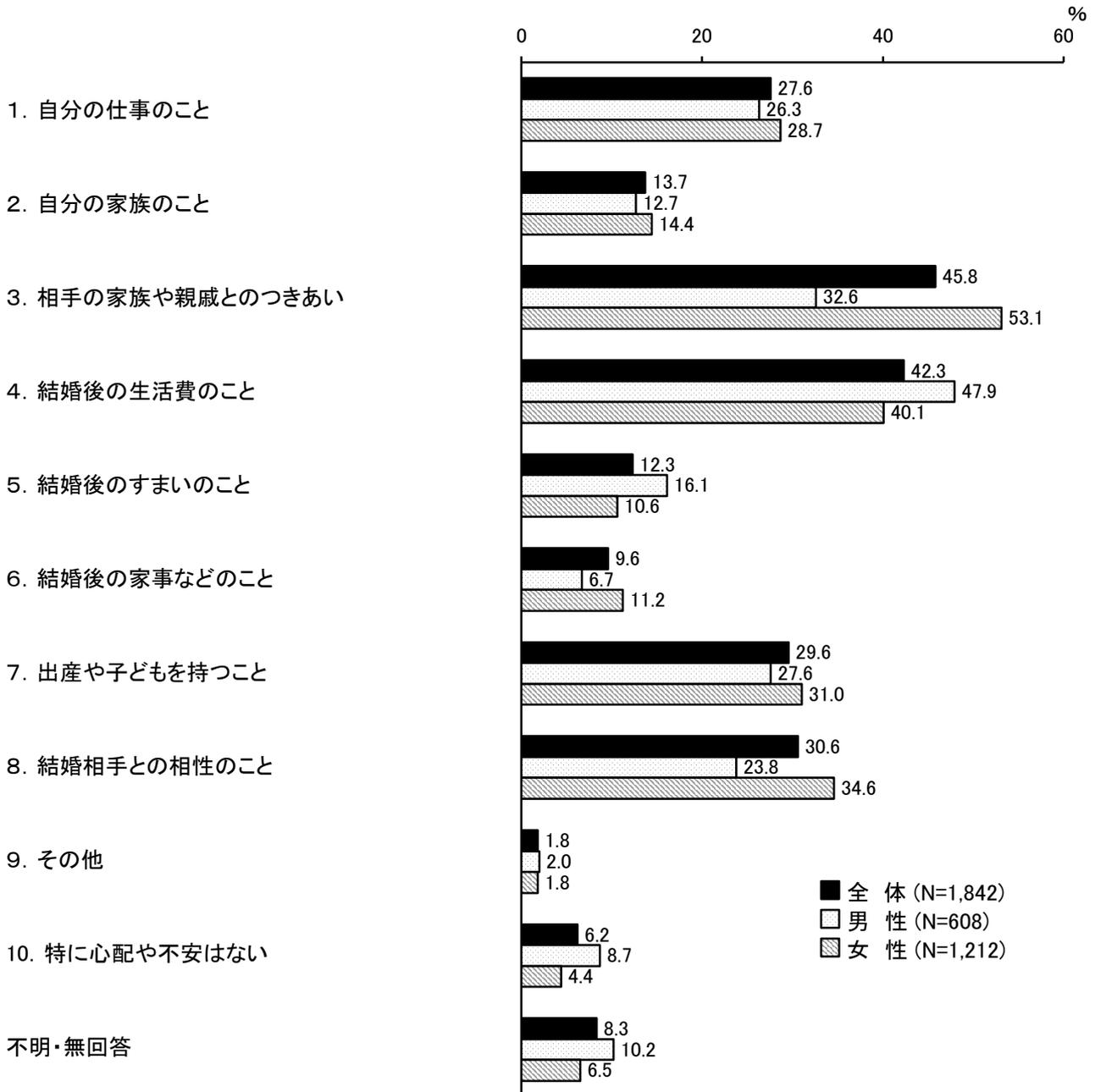
性別にみると、「4. 経済的に不安」については、「男性」が13.2%に対し、「女性」が29.9%と16.7ポイントの差が生じています。



問15 結婚を考える場合、どんな心配や不安がありますか。当てはまる番号3つまでに○をつけてください。

「3. 相手の家族や親戚とのつきあい」の割合が45.8%と最も高く、次いで「4. 結婚後の生活費のこと」の割合が42.3%、「8. 結婚相手との相性のこと」の割合が30.6%となっています。

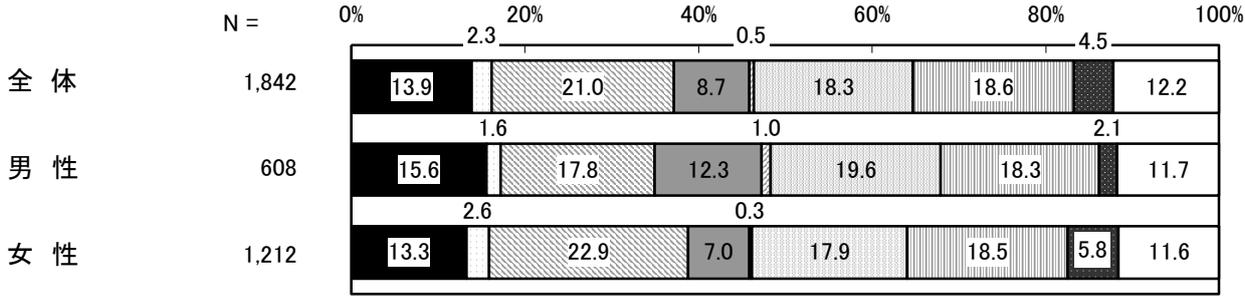
性別にみると、男性は「4. 結婚後の生活費のこと」、女性は「3. 相手の家族や親戚とのつきあい」がそれぞれ最も高くなっています。



問 1 6 結婚生活を始めたとした場合、失いたくないものは何ですか。もっとも失いたくないものの番号 1 つだけに○をつけてください。

「3. 現在の生活水準」の割合が21.0%と最も高く、次いで「7. 特にない」の割合が18.6%、「6. 自由な時間」の割合が18.3%、「1. 現在の仕事」の割合が13.9%となっています。

- 1. 現在の仕事
- 2. 現在の住居
- 3. 現在の生活水準
- 4. 現在の趣味
- 5. 自分の姓
- 6. 自由な時間
- 7. 特にない
- 8. その他
- 不明・無回答



問17 家族や家庭に関する次のような考え方について、どう思いますか。各項目につき当てはまる番号1つに○をつけてください。

「1. そう思う」と「2. どちらかと言えばそう思う」を合わせた『そう思う』の割合が高い項目は、「(6) 結婚は個人の自由なので、してもしなくてもよい」が73.1%と最も高くなっています。

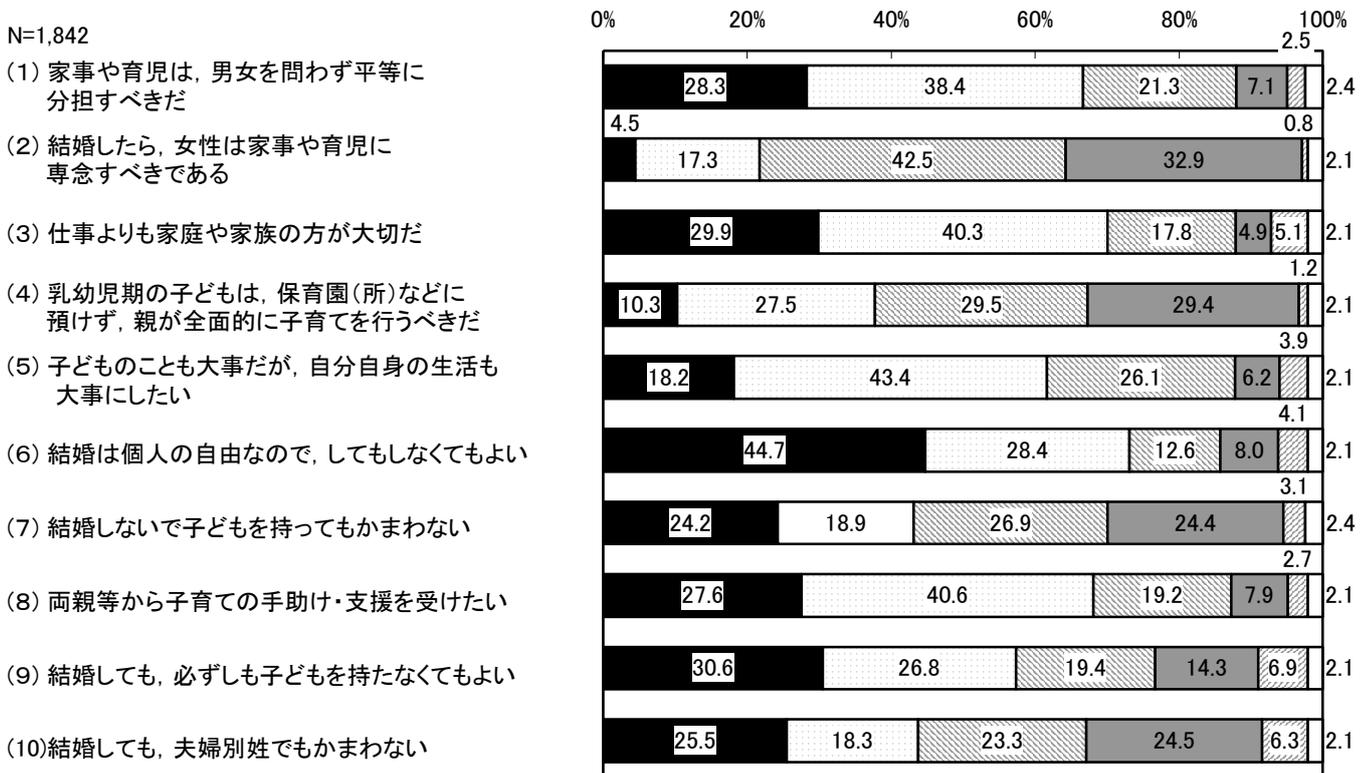
一方で、「3. あまりそう思わない」と「4. そう思わない」を合わせた『そう思わない』の割合が高い項目は、「(2) 結婚したら、女性は家事や育児に専念すべきである」が75.4%と最も高くなっています。

性別にみると、「(8) 両親等から子育ての手助け・支援を受けたい」については、『そう思う』の割合が「男性」が60.7%に対し、「女性」が72.5%と11.8ポイントの差が生じています。

- 1. そう思う
- 2. どちらかと言えばそう思う
- ▨ 3. あまりそう思わない
- 4. そう思わない
- 5. わからない
- 不明・無回答

〔全体〕

N=1,842

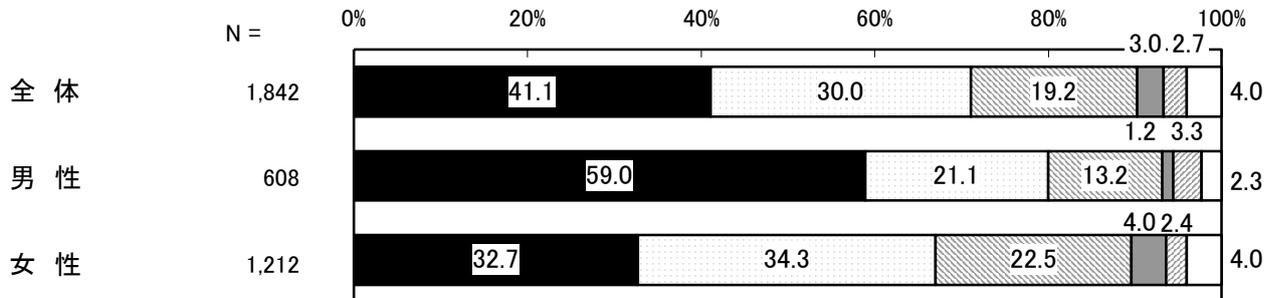


問18 生き方のタイプがいくつか示してあります。それぞれ、最も近いと思われるタイプの番号を選び、回答欄に記入してください。

【理想とする人生】

「1. 結婚し子どもを持つが、仕事は続ける」の割合が41.1%と最も高く、次いで「2. 結婚し子どもを持つが、結婚や出産の機会に（回答者本人又は配偶者が）いったん退職し、子育て後に再び仕事を持つ」の割合が30.0%、「3. 結婚し子どもを持つが、結婚や出産の機会に（回答者本人又は配偶者が）退職し、その後は仕事を持たない」の割合が19.2%となっています。

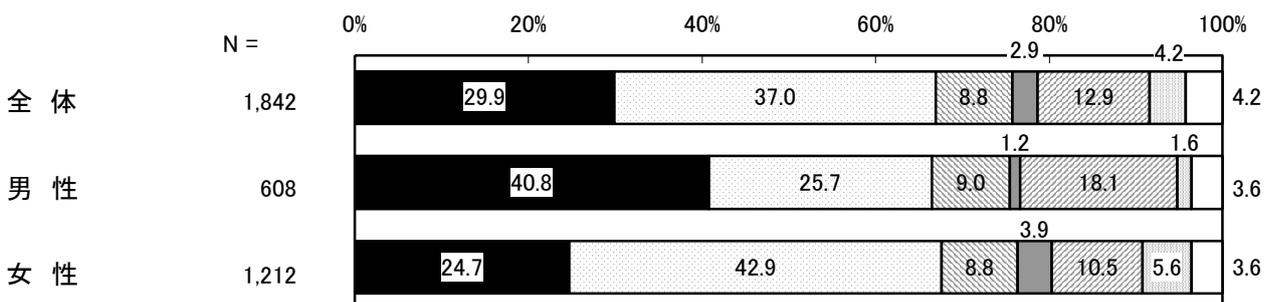
- 1. 結婚し子どもを持つが、仕事は続ける
- 2. 結婚し子どもを持つが、結婚や出産の機会に（回答者本人又は配偶者が）いったん退職し、子育て後に再び仕事を持つ
- ▨ 3. 結婚し子どもを持つが、結婚や出産の機会に（回答者本人又は配偶者が）退職し、その後は仕事を持たない
- 4. 結婚するが子どもは持たず、仕事は続ける
- ▨ 5. 結婚せず、仕事は続ける
- 6. その他
- 不明・無回答



【実際の（実際になりそうな）人生】

「2. 結婚し子どもを持つが、結婚や出産の機会に（回答者本人又は配偶者が）いったん退職し、子育て後に再び仕事を持つ」の割合が37.0%と最も高く、次いで「1. 結婚し子どもを持つが、仕事は続ける」の割合が29.9%、「5. 結婚せず、仕事は続ける」の割合が12.9%となっています。

- 1. 結婚し子どもを持つが、仕事は続ける
- 2. 結婚し子どもを持つが、結婚や出産の機会に（回答者本人又は配偶者が）いったん退職し、子育て後に再び仕事を持つ
- ▨ 3. 結婚し子どもを持つが、結婚や出産の機会に（回答者本人又は配偶者が）退職し、その後は仕事を持たない
- 4. 結婚するが子どもは持たず、仕事は続ける
- ▨ 5. 結婚せず、仕事は続ける
- 6. その他
- 不明・無回答

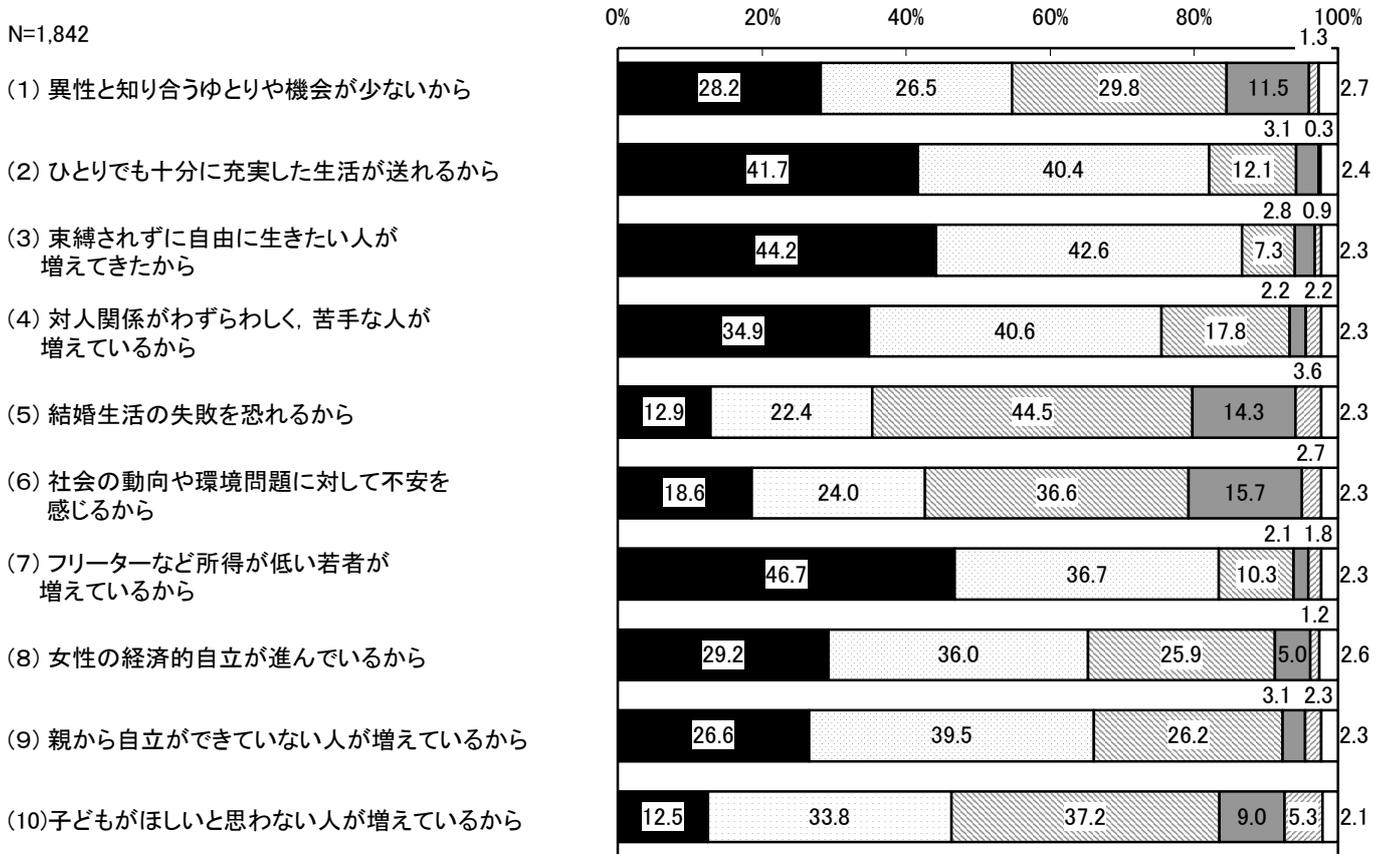


問19 最近、結婚しない人や晩婚の人が増えている理由・原因として次のようなことが考えられていますが、あなたはどのように思いますか。各項目につき当てはまる番号1つに○をつけてください。

「1. そう思う」と「2. どちらかと言えばそう思う」を合わせた『そう思う』の割合が高い項目は、「(3) 束縛されずに自由に生きたい人が増えてきたから」が最も高く86.8%となっています。

一方で、「3. あまりそう思わない」と「4. そう思わない」を合わせた『そう思わない』の割合が高い項目は、「(5) 結婚生活の失敗を恐れるから」が58.8%と最も高くなっています。

- 1. そう思う
- 2. どちらかと言えばそう思う
- ▨ 3. あまりそう思わない
- 4. そう思わない
- ▨ 5. わからない
- 不明・無回答

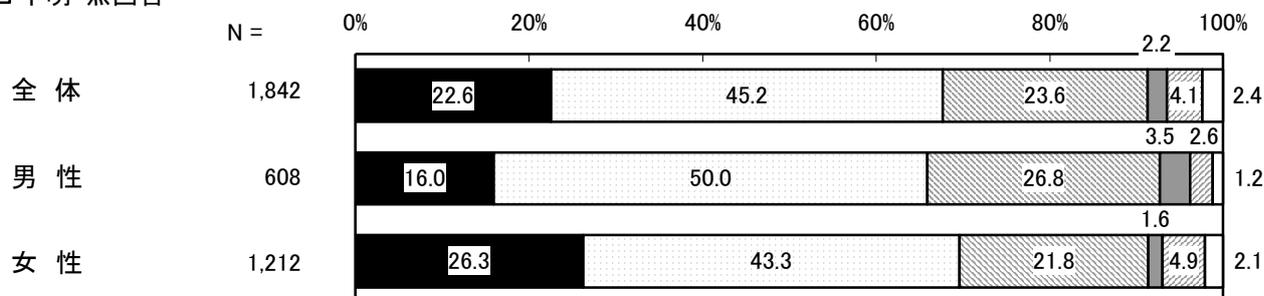


問 2 0 結婚する機会を増やすため、行政がなんらかの支援策を実施することについてどう思いますか。当てはまる番号 1 つに○をつけてください。

「2. 個人の問題ではあるが、行政が支援を行ってもかまわない」の割合が45.2%と最も高く、次いで「3. 結婚しない人が増えれば少子化が進み個人の問題にとどまらないから、行政が積極的に支援すべきである」の割合が23.6%、「1. 個人の問題なので、行政が支援策を実施するのはおかしい」の割合が22.6%となっています。

性別にみると、「1. 個人の問題なので、行政が支援策を実施するのはおかしい」については「男性」が16.0%に対し女性が26.3%と10.3ポイントの差が生じています。

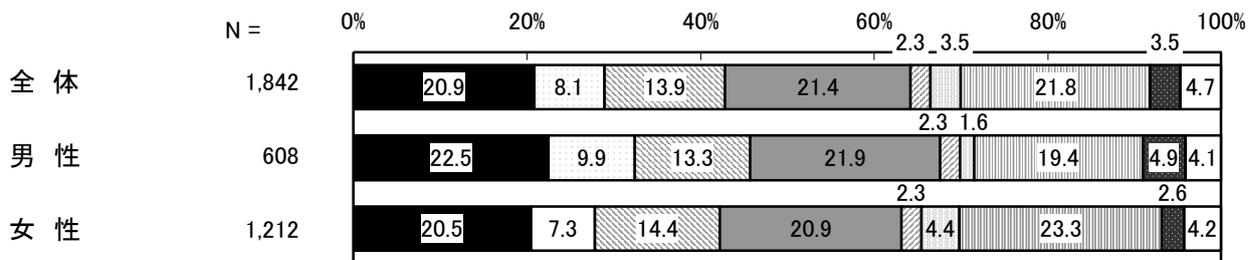
- 1. 個人の問題なので、行政が支援策を実施するのはおかしい
- 2. 個人の問題ではあるが、行政が支援を行ってもかまわない
- ▨ 3. 結婚しない人が増えれば少子化が進み個人の問題にとどまらないから、行政が積極的に支援すべきである
- 4. その他
- ▨ 5. わからない
- 不明・無回答



問 2 1 結婚の支援のため、行政が実施することが望ましい政策はどのようなものと考えますか。もっとも望ましいと考える番号 1 つに○をつけてください。

「7. 保育園（所）等に子どもを預けられるなど、働きながら子育てができる環境づくりを進める」の割合が21.8%と最も高く、次いで「4. 企業等の雇用主に正規職員の雇用を働きかける」の割合が21.4%、「1. 結婚したい男女の出会いの場づくり」の割合が20.9%となっています。性別にみると、大きな差はみられません。

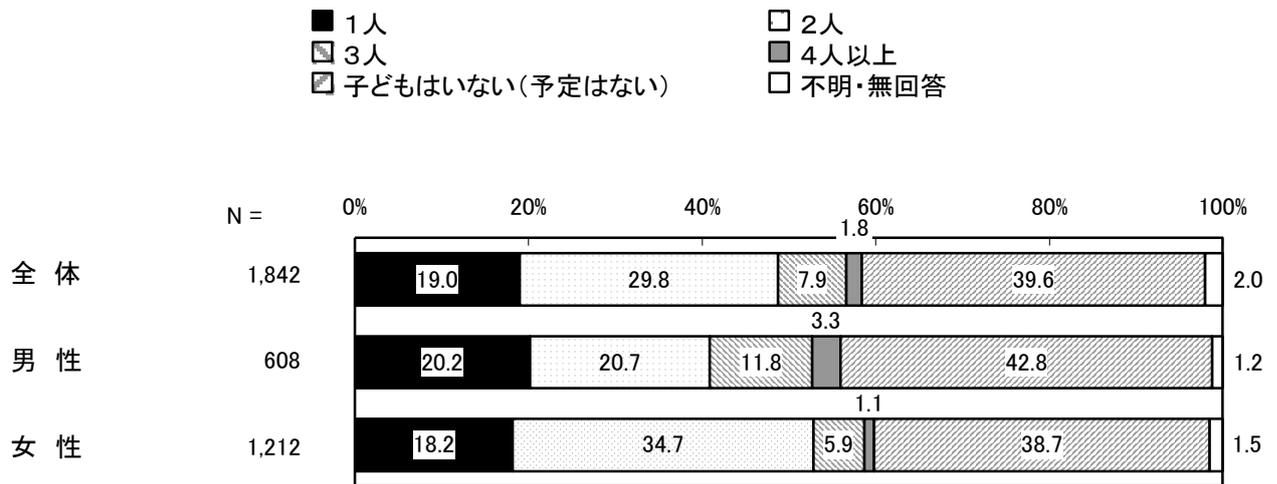
- 1. 結婚したい男女の出会いの場づくり
- 2. 企業等の雇用主に働きかけ、労働時間の短縮を普及させる
- ▨ 3. 企業等の雇用主に働きかけ、男女共に育児に関する休暇を取得しやすい環境づくりを進める
- 4. 企業等の雇用主に正規職員の雇用を働きかける
- ▨ 5. 男女が共に社会参加や自己実現できる意識改革を推進する
- 6. 男性の家事・育児への参加を促すための取組や啓発を進める
- ▨ 7. 保育園（所）等に子どもを預けられるなど、働きながら子育てができる環境づくりを進める
- 8. その他
- 不明・無回答



4 出産について

問22 あなたは何人のお子さんがいますか。当てはまる番号1つに○をつけてください。

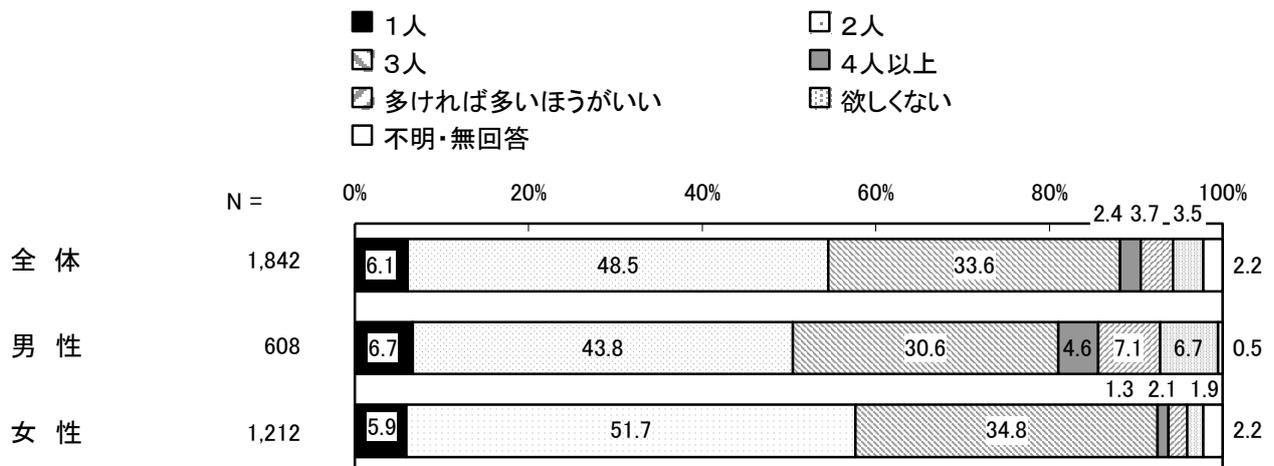
「子どもはいない(予定はない)」の割合が39.6%と最も高く、次いで「2人」の割合が29.8%、「1人」の割合が19.0%となっています。



問23 あなたが、できれば持ちたい「理想」の子ども数は何人ですか。当てはまる番号1つに○をつけてください。

「2人」の割合が48.5%と最も高く、次いで「3人」の割合が33.6%、「1人」の割合が6.1%となっています。

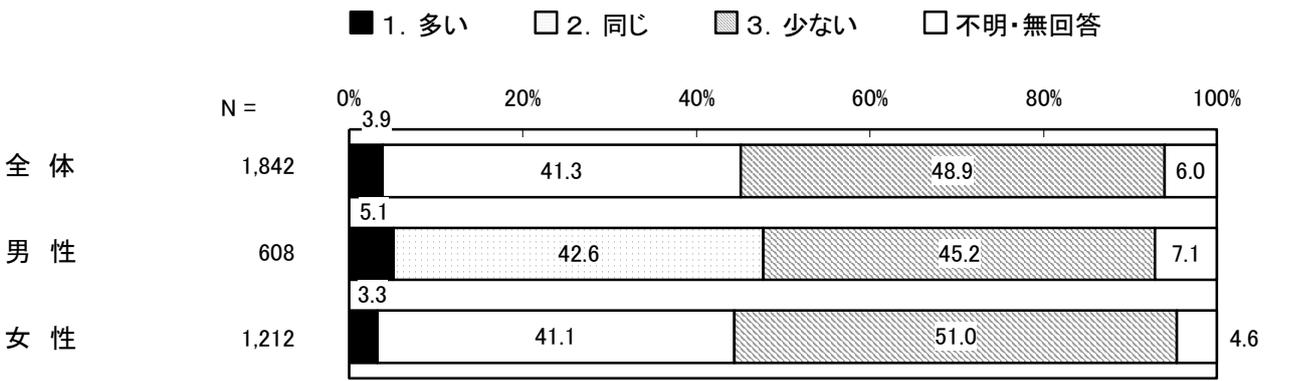
性別にみると、「2人」については「男性」が43.8%に対し女性が51.7%と7.9ポイントの差が生じています。



問 2 4 現実にいる子どもの数, もしくは持とうと予定している子どもの数は理想と比べていかがですか。当てはまる番号 1 つに○をつけてください。

「3. 少ない」の割合が48.9%と最も高く, 「2. 同じ」の割合が41.3%, 「1. 多い」の割合が3.9%となっています。

性別にみると, 「3. 少ない」については「男性」が45.2%に対し女性が51.0%と5.8ポイントの差が生じています。



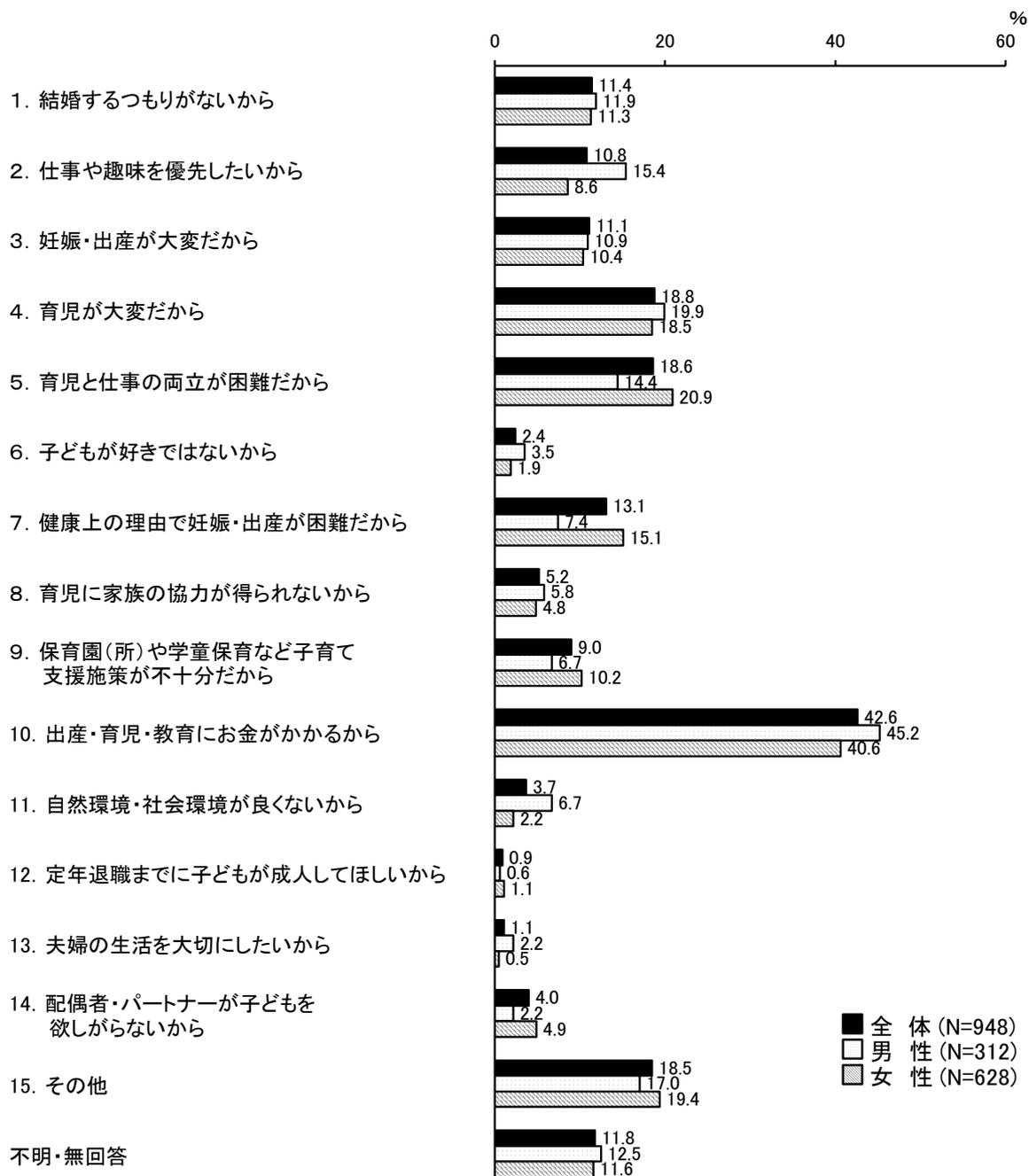
問25, 問26は, 問23で「欲しくない」または問24で「少ない」を選んだ方にお聞きします。

問25 子どもを持たない理由, あるいは実際には理想より少なくなりそうな理由はどんなことが考えられますか。当てはまる番号3つまでに○をつけてください。

「10. 出産・育児・教育にお金がかかるから」の割合が42.6%と最も高く, 次いで「4. 育児が大変だから」の割合が18.8%, 「5. 育児と仕事の両立が困難だから」の割合が18.6%となっています。

性別にみると, 「2. 仕事や趣味を優先したいから」については「男性」が15.4%に対し女性が8.6%と6.8ポイント, 「5. 育児と仕事の両立が困難だから」については「男性」が14.4%に対し女性が20.9%と6.5ポイント, 「7. 健康上の理由で妊娠・出産が困難だから」については「男性」が7.4%に対し女性が15.1%と7.7ポイントの差が生じています。

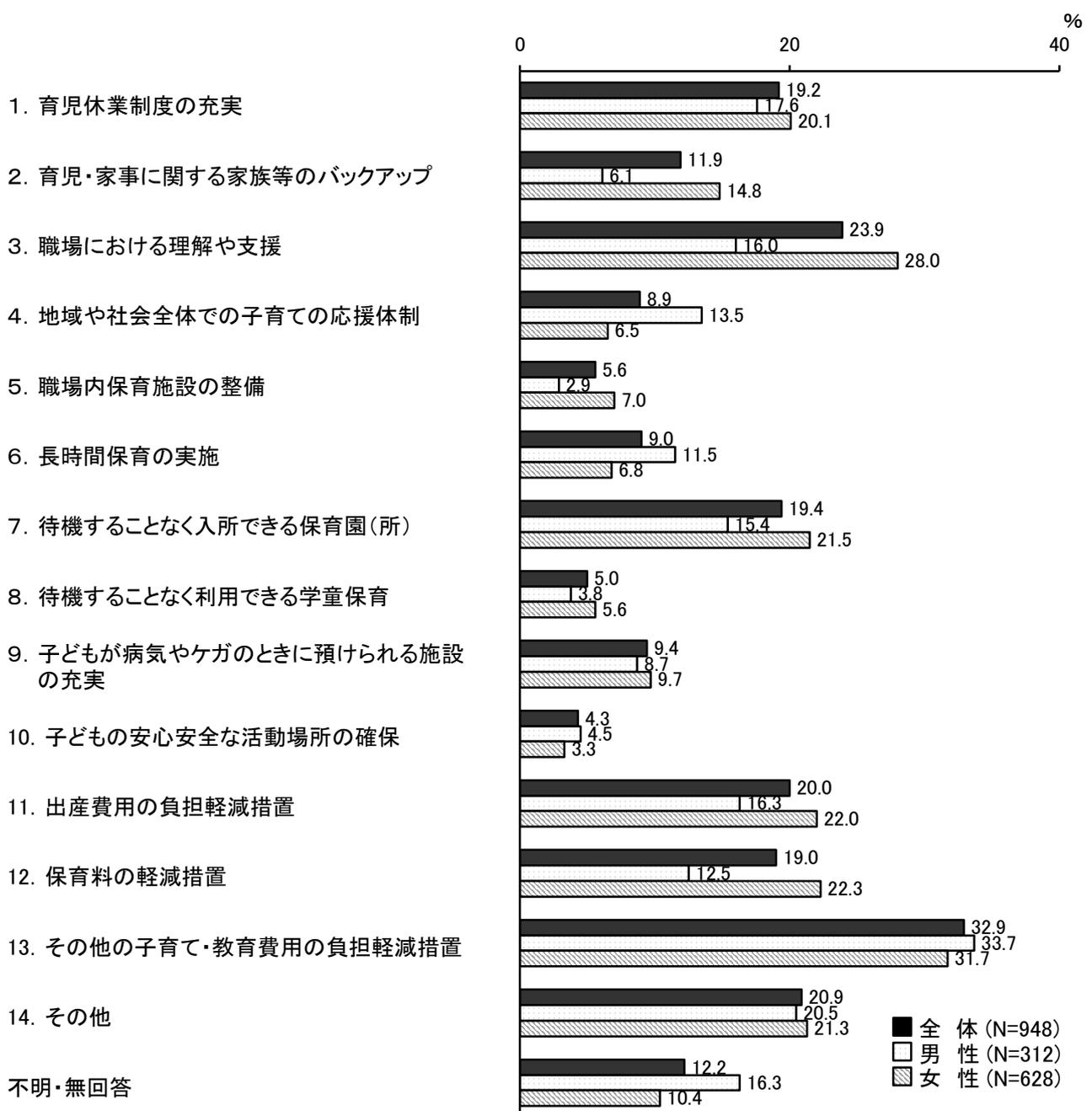
平成20年調査と比較すると, 「7. 健康上の理由で妊娠・出産が困難だから」, 「1. 結婚するつもりがないから」の割合が高くなっており, 特に女性で高くなっています。



問26 以下の項目について、もし十分に条件が満たされていたら、子どもを持ったり、理想の子ども数に近づいていたと思いますか。これだけあればできるかもしれないと思う最低限必要な項目に○をつけてください。

「13. その他の子育て・教育費用の負担軽減措置」の割合が32.9%と最も高く、次いで「3. 職場における理解や支援」の割合が23.9%、「11. 出産費用の負担軽減措置」の割合が20.0%となっています。

性別にみると、「2. 育児・家事に関する家族等のバックアップ」については「男性」が6.1%に対し女性が14.8%と8.7ポイント、「3. 職場における理解や支援」については「男性」が16.0%に対し女性が28.0%と12.0ポイント、「7. 待機することなく入所できる保育園（所）」については「男性」が15.4%に対し女性が21.5%と6.1ポイントの差が生じています。

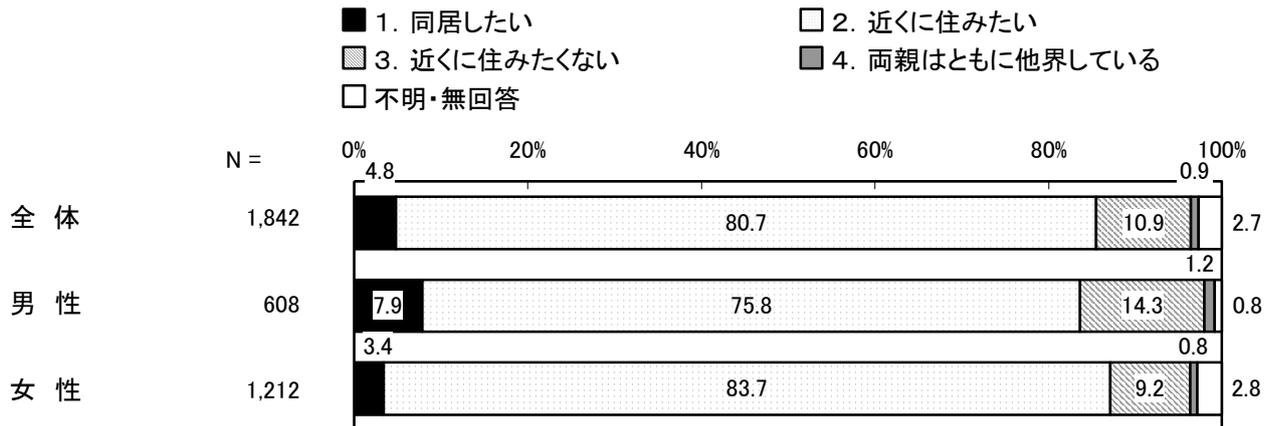


すべての方にお聞きします。

問 2 7 あなたは出産後の実家との関わり方についてどう思っていますか。当てはまる番号 1 つに○をつけてください。

「2. 近くに住みたい」の割合が80.7%と最も高く、次いで「3. 近くに住みたくない」の割合が10.9%、「1. 同居したい」の割合が4.8%となっています。

性別にみると、「2. 近くに住みたい」については「男性」が75.8%に対し女性が83.7%と7.9ポイント、「3. 近くに住みたくない」については「男性」が14.3%に対し女性が9.2%と5.1ポイントの差が生じています。

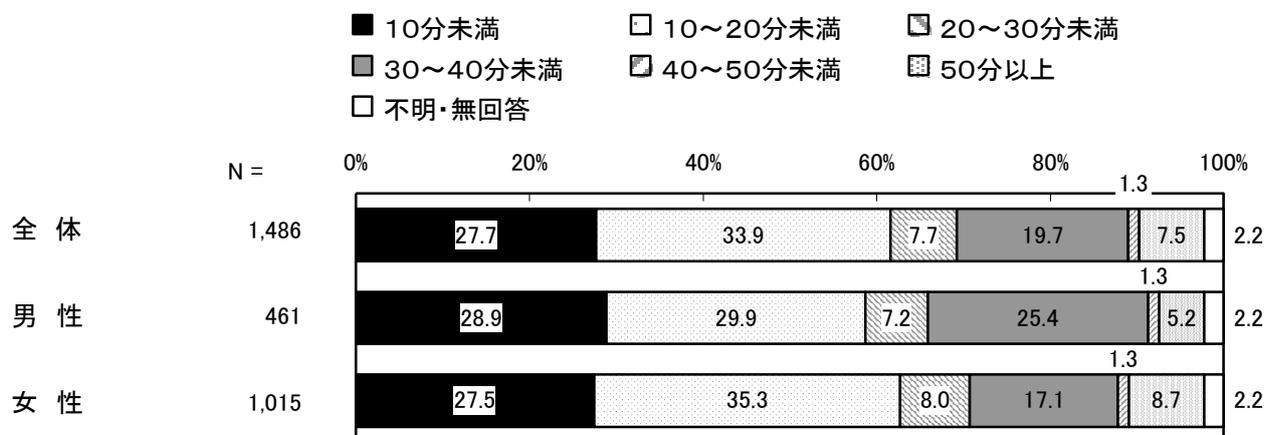


問 2 7 で「近くに住みたい」を選んだ方にお聞きします。

問 2 7 - 2 実家との理想的な距離は、車で何分くらいですか。

「10～20分未満」の割合が33.9%と最も高く、次いで「10分未満」の割合が27.7%、「30～40分未満」の割合が19.7%となっています。

性別にみると、「10～20分未満」については「男性」が29.9%に対し女性が35.3%と5.4ポイント、「30～40分未満」については「男性」が25.4%に対し女性が17.1%と8.3ポイントの差が生じています。

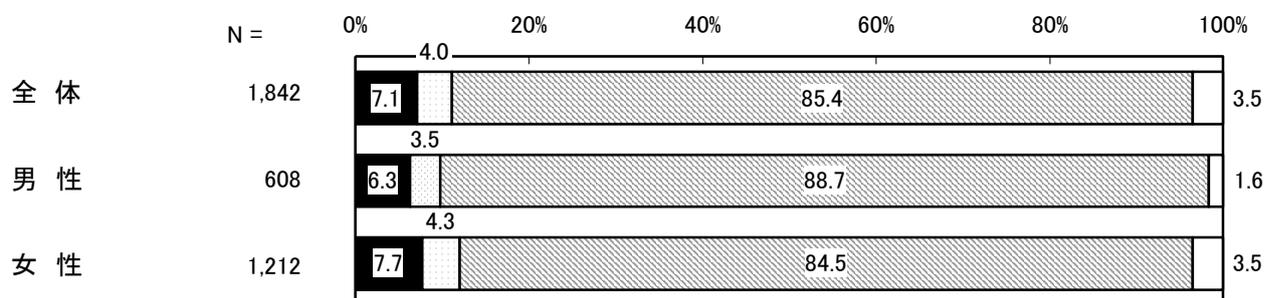


5 「真のワーク・ライフ・バランス」の実現について

問28 あなたは、京都市が提案している「真のワーク・ライフ・バランス」について知っていますか。当てはまる番号1つに○をつけてください。

「3. 言葉も知らない」の割合が85.4%と最も高く、次いで「1. 「真のワーク・ライフ・バランス」という言葉も意味も知っていた」の割合が7.1%、「2. 「真のワーク・ライフ・バランス」という言葉は知っていたが意味は知らなかった」の割合が4.0%となっています。性別による大きな差はみられません。

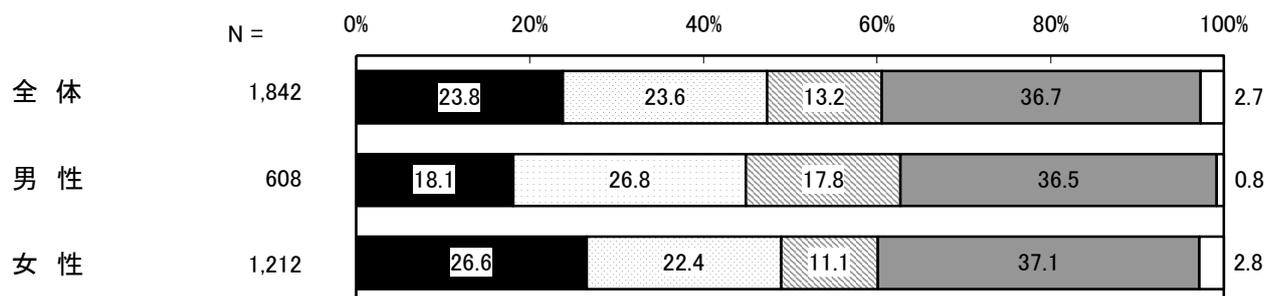
- 1. 「真のワーク・ライフ・バランス」という言葉も意味も知っていた
- 2. 「真のワーク・ライフ・バランス」という言葉は知っていたが意味は知らなかった
- ▨ 3. 言葉も知らない
- 不明・無回答



問29 あなたは、ご自身やご家族について、仕事と家庭生活、地域活動や社会貢献の調和が希望どおりに図れていると思いますか。当てはまる番号1つに○をつけてください。

「4. 考えたこともない」の割合が36.7%と最も高く、次いで「1. 図れている」の割合が23.8%、「2. 図ろうとしているがあまり図れていない」の割合が23.6%となっています。性別にみると、「1. 図れている」については「男性」が18.1%に対し女性が26.6%と8.5ポイント、「3. 全く図れていない」については「男性」が17.8%に対し女性が11.1%と6.7ポイントの差が生じており、男性より女性の方が、仕事と家庭生活、地域活動や社会貢献との調和が図れているという状況が現れています。

- 1. 図れている
- 2. 図ろうとしているがあまり図れていない
- ▨ 3. 全く図れていない
- 4. 考えたこともない
- 不明・無回答



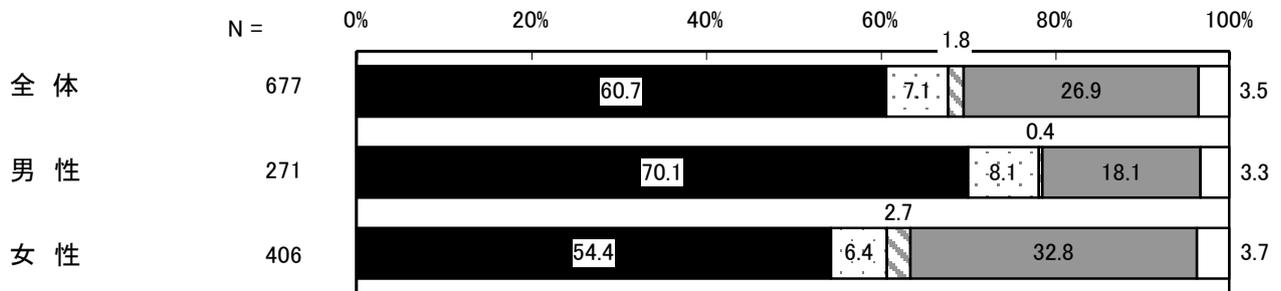
問29で「図ろうとしているがあまり図れていない」または「全く図れていない」を選ばれた方にお聞きします。

問29-2 図れていない理由は何ですか。当てはまる番号1つに○をつけてください。

「1. 仕事が忙しく、個人の生活のために仕事を中途にして帰宅するのは容易でない」の割合が60.7%と最も高く、次いで「2. 自分の私生活より仕事の方が大切だと思うから」の割合が7.1%、「3. 仕事以外にやるべき(やりたい)ことがないから」の割合が1.8%となっています。

性別にみると、「1. 仕事が忙しく、個人の生活のために仕事を中途にして帰宅するのは容易でない」については「男性」が70.1%に対し女性が54.4%と15.7ポイントの差が生じています。

- 1. 仕事が忙しく、個人の生活のために仕事を中途にして帰宅するのは容易でない
- 2. 自分の私生活より仕事の方が大切だと思うから
- ▨ 3. 仕事以外にやるべき(やりたい)ことがないから
- 4. その他
- 不明・無回答



問30～問33は、結婚している方（入籍していないいわゆる事実婚を含む。）にお聞きします。

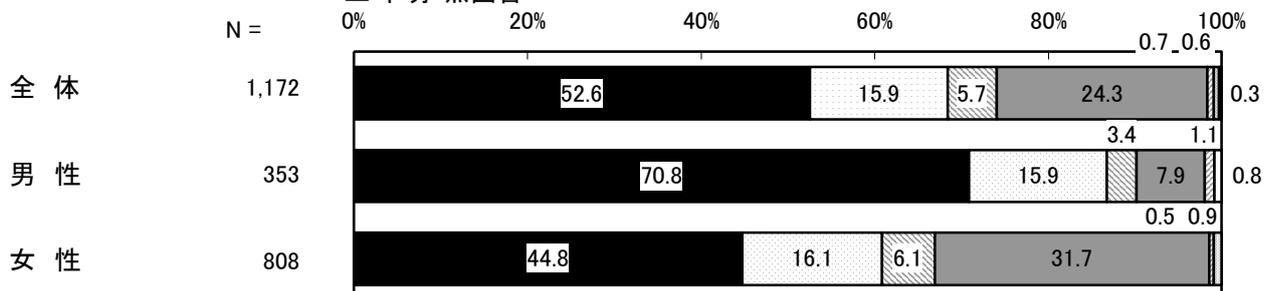
問30 結婚の前後で、仕事の状況はどのように変わりましたか。本人と配偶者それぞれ当てはまる番号1つに○をつけてください。

〔本人〕

「1. 結婚前の仕事を続けた」の割合が52.6%と最も高く、次いで「4. 仕事を辞めた」の割合が24.3%、「2. 仕事を变えて働き続けた」の割合が15.9%となっています。

性別にみると、「1. 結婚前の仕事を続けた」については「男性」が70.8%に対し女性が44.8%と26ポイント、「4. 仕事を辞めた」については「男性」が7.9%に対し女性が31.7%と23.8ポイントの差が生じています。

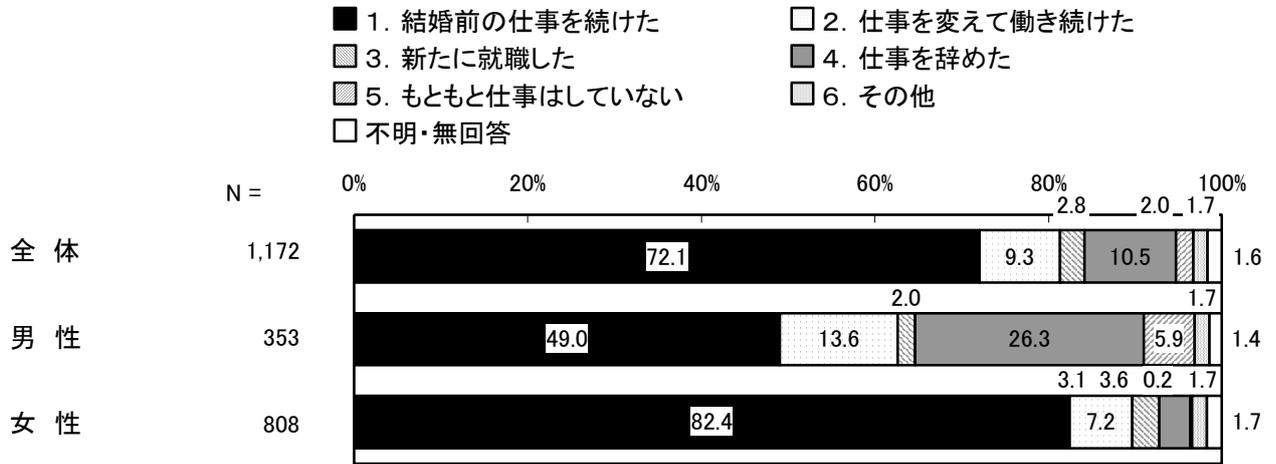
- 1. 結婚前の仕事を続けた
- 2. 仕事を变えて働き続けた
- ▨ 3. 新たに就職した
- 4. 仕事を辞めた
- ▨ 5. もともと仕事はしていない
- 6. その他
- 不明・無回答



〔配偶者〕

「1. 結婚前の仕事を続けた」の割合が72.1%と最も高く、次いで「4. 仕事を辞めた」の割合が10.5%、「2. 仕事を变えて働き続けた」の割合が9.3%となっています。

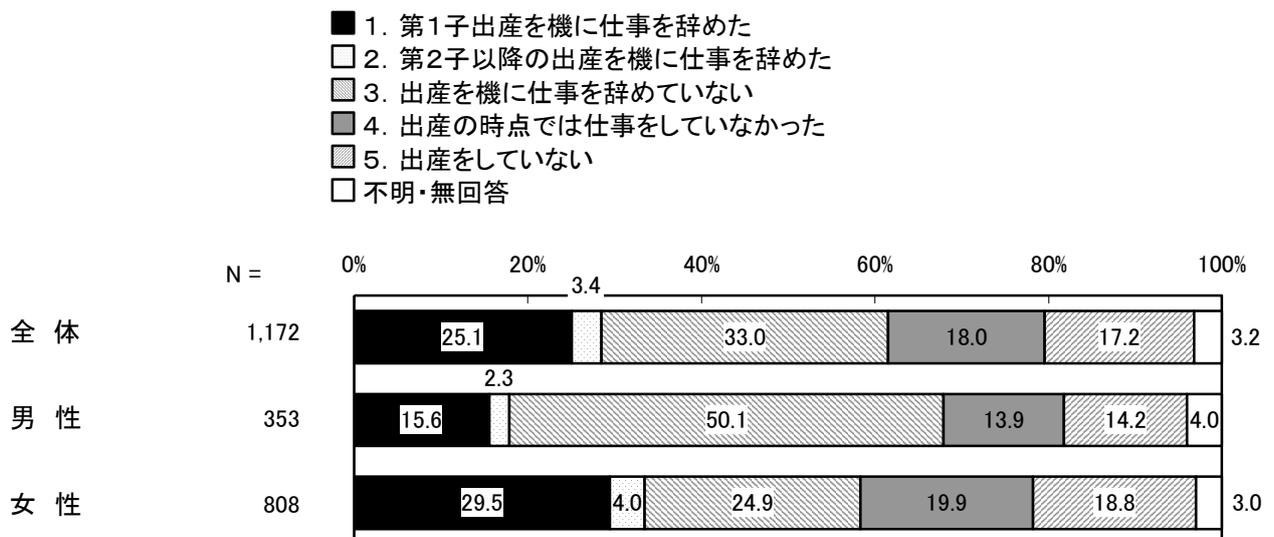
性別にみると、「1. 結婚前の仕事を続けた」については「男性」が49.0%に対し女性が82.4%と33.4ポイント、「4. 仕事を辞めた」については「男性」が26.3%に対し女性が3.6%と22.7ポイントの差が生じています。



問3 1 あなたは、出産（配偶者の出産を含む）を機に仕事を辞めた経験がありますか。当てはまる番号1つに○をつけてください。

「3. 出産を機に仕事を辞めていない」の割合が33.0%と最も高く、次いで「1. 第1子出産を機に仕事を辞めた」の割合が25.1%、「4. 出産の時点では仕事をしていなかった」の割合が18.0%となっています。

性別にみると、「1. 第1子出産を機に仕事を辞めた」については「男性」が15.6%に対し女性が29.5%と13.9ポイント、「3. 出産を機に仕事を辞めていない」については「男性」が50.1%に対し女性が24.9%と25.2ポイントの差が生じています。



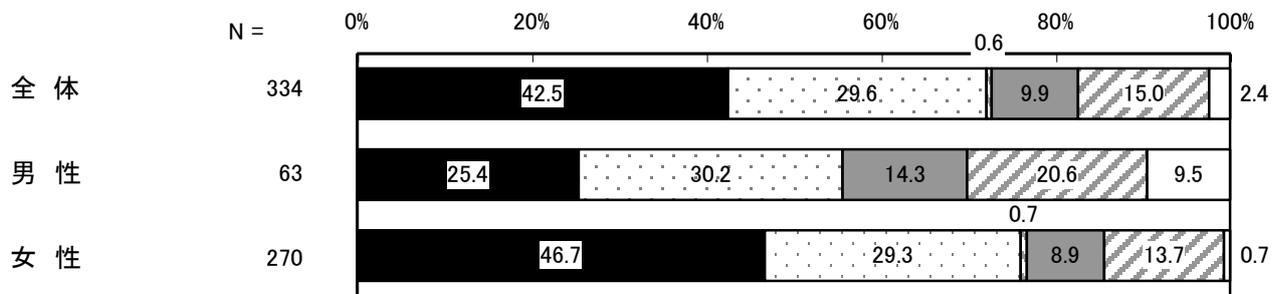
問31-2, 問31-3は, 問31で「第1子出産を機に仕事を辞めた」または「第2子以降の出産を機に仕事を辞めた」を選ばれた方にお聞きします。

問31-2 仕事を辞めた理由について, 当てはまる番号1つに○をつけてください。

「1. 家庭生活(家事や子育てなど)に専念したかった」の割合が42.5%と最も高く, 次いで「2. 職場が育児休業, 子の看護休暇などを利用しづらい雰囲気であった」の割合が29.6%, 「4. 仕事と家庭生活の両立が困難だった」の割合が9.9%となっています。

性別にみると, 「1. 家庭生活(家事や子育てなど)に専念したかった」については「男性」が25.4%に対し女性が46.7%と21.3ポイント, 「4. 仕事と家庭生活の両立が困難だった」については「男性」が14.3%に対し女性が8.9%と5.4ポイントの差が生じています。

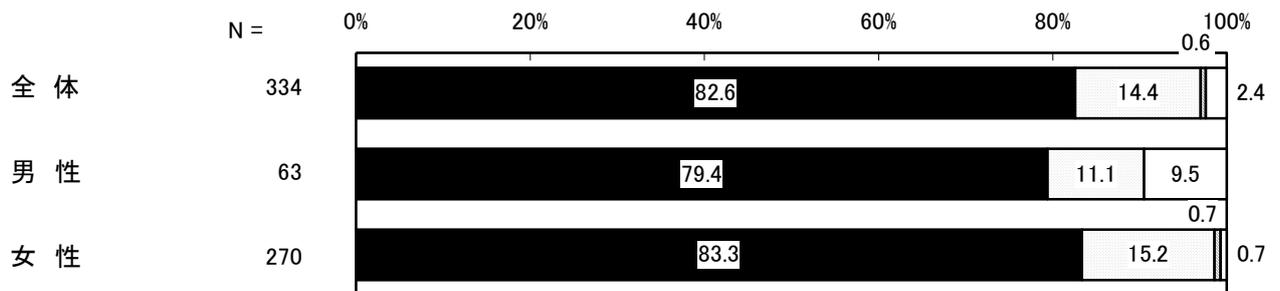
- 1. 家庭生活(家事や子育てなど)に専念したかった
- 2. 職場が育児休業, 子の看護休暇などを利用しづらい雰囲気であった
- ▨ 3. 配偶者や家族が退職を望んだ
- 4. 仕事と家庭生活の両立が困難だった
- ▨ 5. その他
- 不明・無回答



問31-3 仕事を辞めたあと, また働きはじめましたか. 当てはまる番号1つに○をつけてください。

「1. 働きはじめた」の割合が82.6%と最も高く, 次いで「2. 働いてないが, 機会があれば働きたい」の割合が14.4%, 「3. 働いていないし, これからも働くつもりはない」の割合が0.6%となっています。性別による差はみられません。

- 1. 働きはじめた
- 2. 働いてないが, 機会があれば働きたい
- ▨ 3. 働いていないし, これからも働くつもりはない
- 不明・無回答



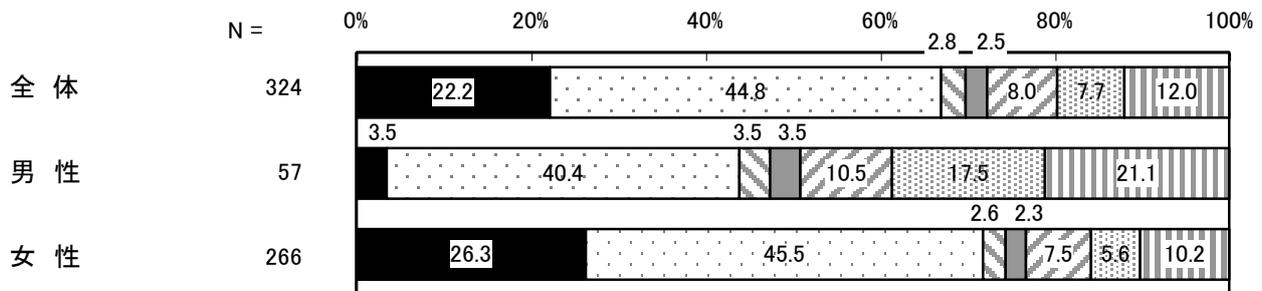
問3 1-3で「働きはじめた」または「働いてないが、機会があれば働きたい」を選んだ方にお聞きします。

問3 1-4 また働きはじめた、あるいは機会があれば働きたいと思ったきっかけは何でしたか。もっとも大きなきっかけとなったもの1つに○をつけてください。

「2. 経済的な理由が発生したから」の割合が44.8%と最も高く、次いで「1. 子どもが大きくなったから」の割合が22.2%、「5. 元の職場から誘われたから」の割合が8.0%となっています。

性別にみると、「1. 子どもが大きくなったから」については「男性」が3.5%に対し女性が26.3%と22.8ポイントの差が生じています。

- 1. 子どもが大きくなったから
- 2. 経済的な理由が発生したから
- ▨ 3. 友人・知人に誘われたから
- ▩ 4. 配偶者から勧められたり、頼まれたから
- ▧ 5. 元の職場から誘われたから
- 6. 求人募集をみてやる気になったから
- ▨ 7. その他
- 不明・無回答



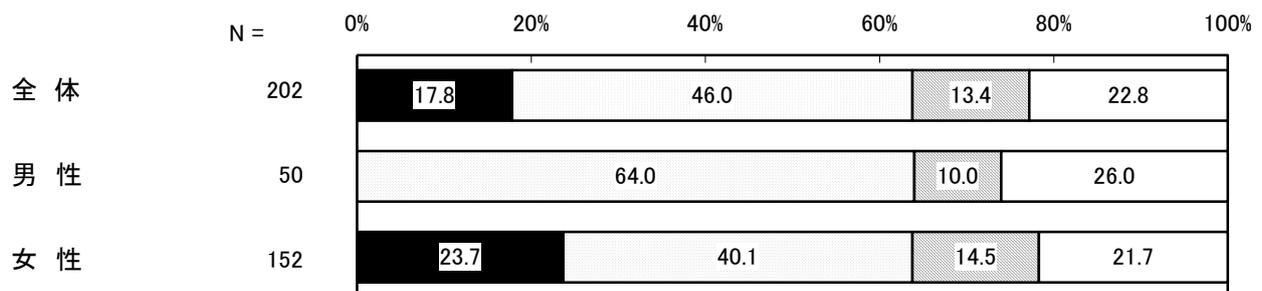
問3 1で「出産をしていない」を選んだ方にお聞きします。

問3 1-5 あなたは、出産（配偶者の出産を含む）を機に仕事を辞めようと思いませんか。当てはまる番号1つに○をつけてください。

「2. 思わない」の割合が46.0%と最も高く、次いで「1. 思う」の割合が17.8%となっています。

性別にみると、「1. 思う」について「男性」で0.0%に対し「女性」で23.7%となっています。

- 1. 思う
- 2. 思わない
- ▨ 3. わからない
- 不明・無回答

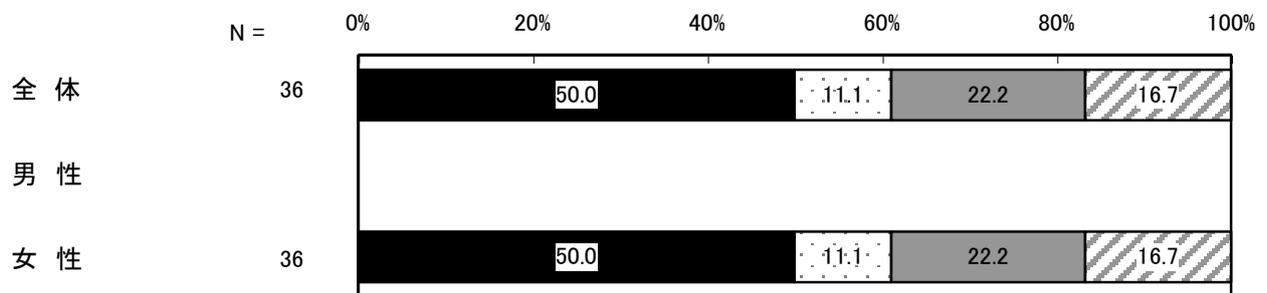


問3 1-5で「思う」を選んだ方にお聞きします。

問3 1-6 その理由は何ですか。当てはまる番号1つに○をつけてください。

「1. 家庭生活（家事や子育てなど）に専念したい」の割合が50.0%と最も高く、次いで「4. 仕事と家庭生活の両立が難しそうのため」の割合が22.2%、「2. 職場が育児休暇制度などを利用しづらい雰囲気のため」の割合が11.1%、「3. 配偶者や家族が退職を望みそうのため」の割合が16.7%となっています。

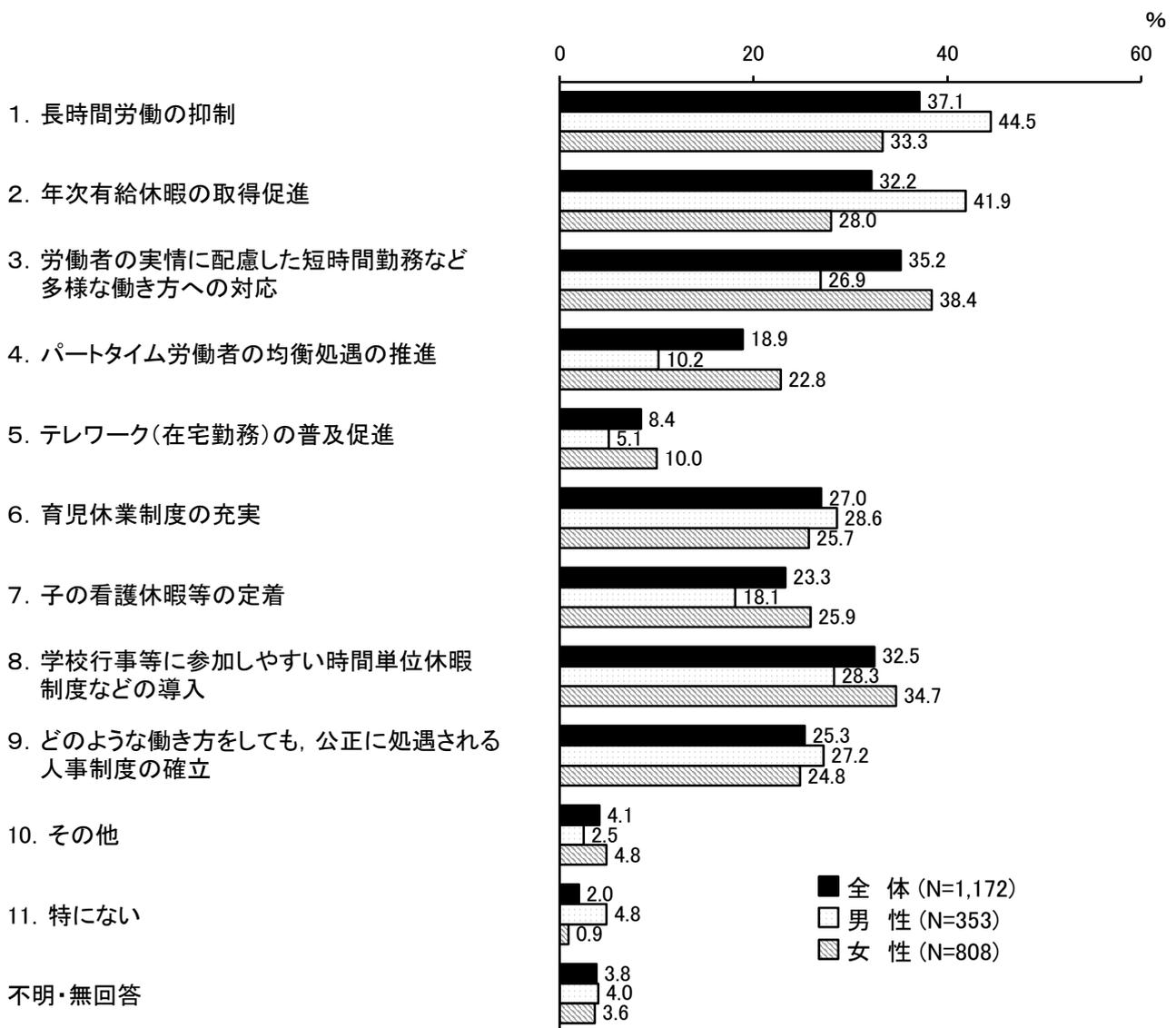
- 1. 家庭生活(家事や子育てなど)に専念したい
- 2. 職場が育児休暇制度などを利用しづらい雰囲気のため
- ▨ 3. 配偶者や家族が退職を望みそうのため
- 4. 仕事と家庭生活の両立が難しそうのため
- ▨ 5. その他
- 不明・無回答



問3 2 仕事と家庭生活，地域活動や社会貢献の調和の実現のために，企業等にどんなことに取り組んでほしいと思いますか。当てはまる番号3つまでに○をつけてください。

「1. 長時間労働の抑制」の割合が37.1%と最も高く，次いで「3. 労働者の実情に配慮した短時間勤務など多様な働き方への対応」の割合が35.2%，「8. 学校行事等に参加しやすい時間単位休暇制度などの導入」の割合が32.5%となっています。

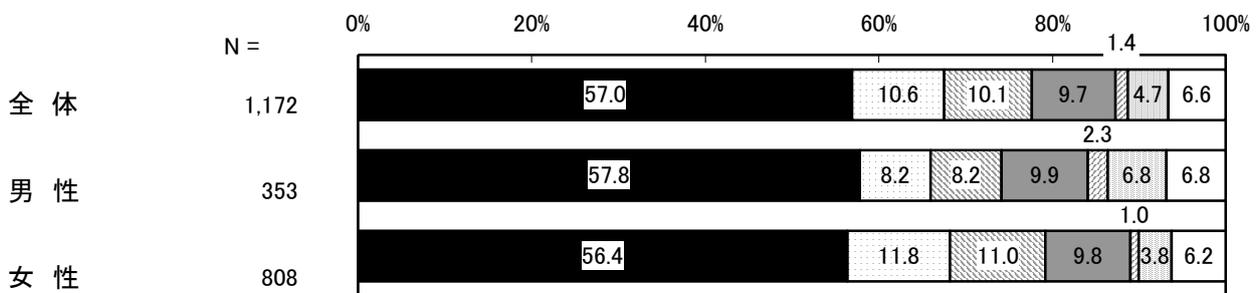
性別にみると，「2. 年次有給休暇の取得促進」については「男性」が41.9%に対し女性が28.0%と13.9ポイント，「4. パートタイム労働者の均衡処遇の推進」については「男性」が10.2%に対し女性が22.8%と12.6ポイントの差が生じています。



問 3 3 仕事と家庭生活，地域活動や社会貢献の調和を積極的に推進したり，理解がある企業等についてどのように思いますか。当てはまる番号1つに○をつけてください。

「1. 人材を大切にする企業等は，将来必ず発展すると思う」の割合が57.0%と最も高く，次いで「2. 企業等として信頼できるので，当該企業等のサービスを積極的に利用しようと思う」の割合が10.6%，「3. 自分自身や子どもが就職する際に，当該企業等を候補として是非検討したい」の割合が10.1%，「4. 企業等として仕事と生活の調和の推進に取り組む責任があるので当然のことだと思う」の割合が9.7%，「5. 当該企業等は，競争社会では到底勝ち抜いていけないと思う」の割合が4.7%，「6. その他」の割合が6.6%となっています。性別による大きな差はありません。

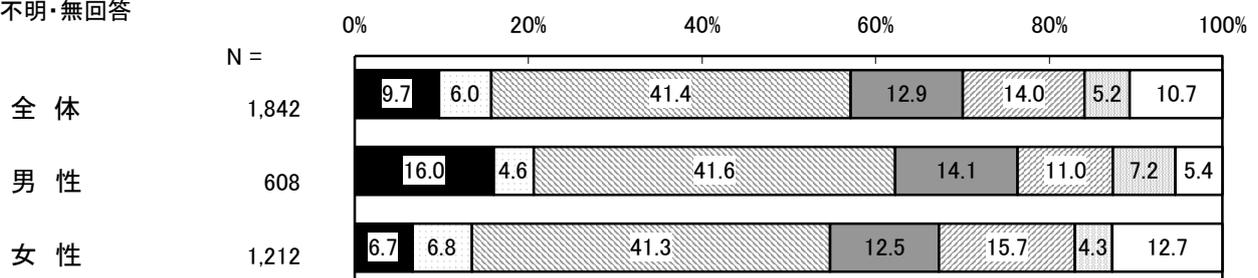
- 1. 人材を大切にする企業等は，将来必ず発展すると思う
- 2. 企業等として信頼できるので，当該企業等のサービスを積極的に利用しようと思う
- 3. 自分自身や子どもが就職する際に，当該企業等を候補として是非検討したい
- 4. 企業等として仕事と生活の調和の推進に取り組む責任があるので当然のことだと思う
- 5. 当該企業等は，競争社会では到底勝ち抜いていけないと思う
- 6. その他
- 不明・無回答



問 3 4 仕事と家庭生活，地域活動や社会貢献の調和の実現のため，国や京都市にどのようなことを期待しますか。当てはまる番号1つに○をつけてください。

「3. 仕事と家庭生活，地域活動や社会貢献の調和実現に積極的に取り組む企業等への経済的な支援（税制上の優遇措置等）」の割合が41.4%と最も高く，次いで「5. 法整備による取組の義務化」の割合が14.0%，「4. 仕事と家庭生活，地域活動や社会貢献の調和を推進する社会的気運の醸成」の割合が12.9%となっています。性別にみると，「1. 企業等への積極的な啓発」については「男性」が16.0%に対し女性が6.7%と9.3ポイントの差が生じています。

- 1. 企業等への積極的な啓発
- 2. 仕事と家庭生活，地域活動や社会貢献の調和実現に積極的に取り組む企業等への表彰
- 3. 仕事と家庭生活，地域活動や社会貢献の調和実現に積極的に取り組む企業等への経済的な支援（税制上の優遇措置等）
- 4. 仕事と家庭生活，地域活動や社会貢献の調和を推進する社会的気運の醸成
- 5. 法整備による取組の義務化
- 6. その他
- 不明・無回答



6 最後に

問35 あなたは、結婚や出産後も京都市に住み続けたいと思いますか。当てはまる番号1つに○をつけてください。

「1. 思う」の割合が71.1%と最も高く、次いで「2. 思わない」の割合が6.8%となっています。

■ 1. 思う □ 2. 思わない ▨ 3. わからない □ 不明・無回答

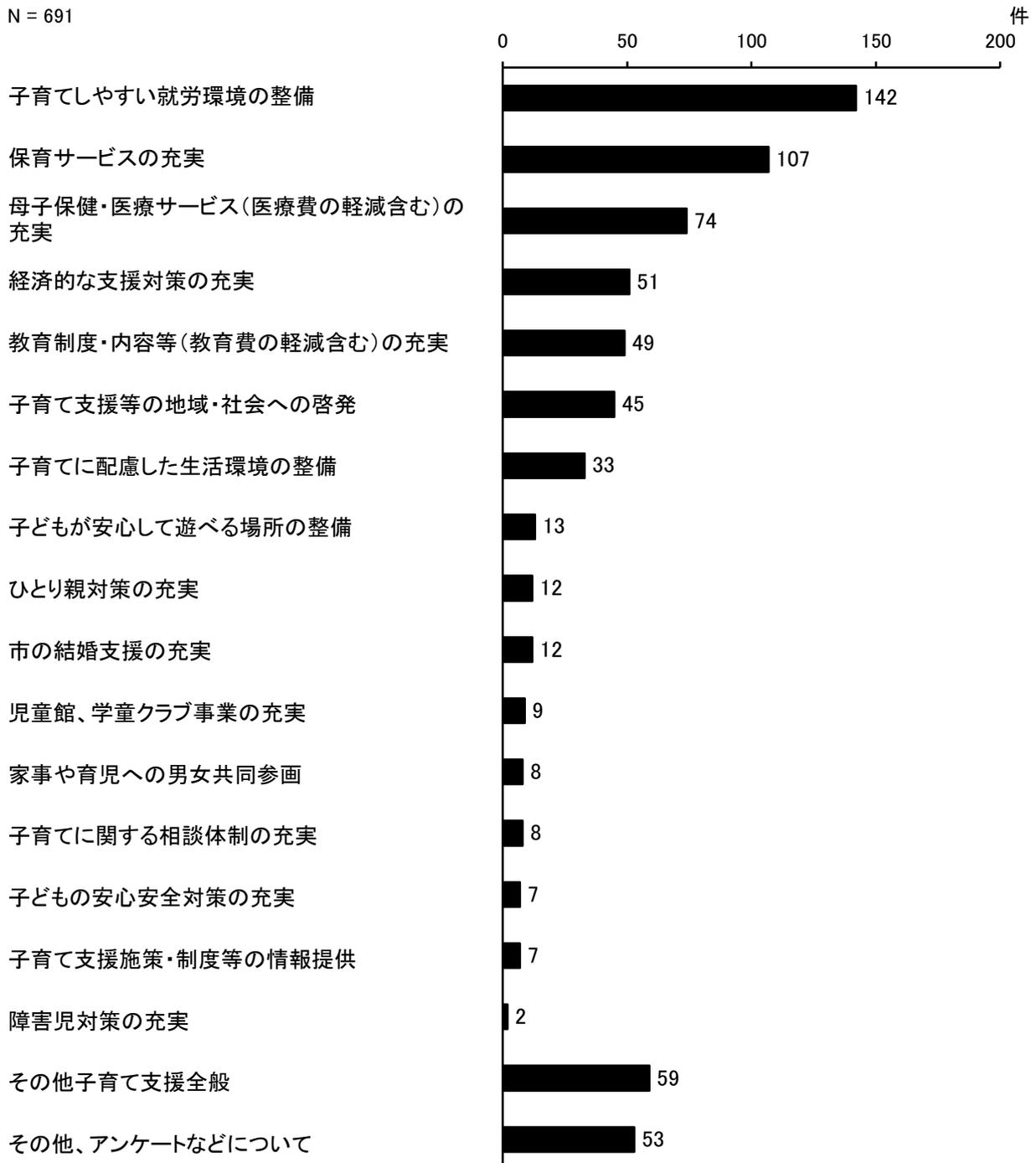


問36 安心して子どもを産み、子どもを健やかに育てていくための行政の施策や、社会の制度のあり方について、特に望むことやご意見がありましたら、ご自由にお書きください。

【自由意見のまとめ】

安心して子どもを産み、子どもを健やかに育てていくための行政の施策や、社会の制度のあり方について、「子育てしやすい就労環境の整備」の件数が142件と最も多く、次いで「保育サービスの充実」の件数が107件となっています。

N = 691



**京都市
結婚と出産に関する意識調査
【結果報告書】
(概要版)**

発行年月 平成26年10月

京都市保健福祉局子育て支援部児童家庭課

〒604 - 8171

京都市中京区烏丸通御池下る虎屋町 566-1 井門明治安田生命ビル3階

電話：075 - 251 - 2380 FAX：075 - 251 - 2322

<http://www.city.kyoto.lg.jp/hokenfukushi/soshiki/8-3-1-0-0.html>

京都市印刷物 第263100号



この印刷物は、不要になりましたら「雑がみ」としてリサイクルできます。

コミュニティ回収や古紙回収等にお出してください。

